Nestlé in society

共通価値の創造と
2016年 私たちのコミットメント

Nestlé 150 Years
of Good Food, Good Life

目次

2 **会長とCEOからのメッセージ**

4 **ネスレが社会に与えるプラスの影響**

6 **共通価値の創造を基盤として**

7 **共通価値の創造が投資家にとって重要な理由**

8 **グローバルな課題へのネスレの貢献**

10 **ネスレのコミットメントの紹介**

12 **栄養・健康・ウェルネス**
ネスレの栄養への重点的な取り組みが
どのように個人と家族の生活の質を高めているかを
紹介します。

23 **農村開発**
ネスレと農業従事者や農業コミュニティの
協力活動を紹介します。

27 **水**
水という貴重な資源の責任ある管理を推進する
コミットメントを紹介します。

32 **環境サステナビリティ**
ネスレ製品を環境負荷のより少ないものにするための
計画を紹介します。

37 **人材、人権とコンプライアンス**
活気あるコミュニティを育成する
ネスレの取り組みと、「人権影響評価」に関する
活動を紹介します。

44 **ネスレの重要課題**

46 **ステークホルダーとの関わり**

関連報告書

2016年 アニュアルレビュー

コーポレートガバナンスレポート 2016
コンペンセーションレポート 2016
フィナンシャルステートメント 2016

前表紙
ネスレは*Nido Fortigrow*などのさまざまな
栄養強化食品飲料を通じて、ニーズの最も
大きい、子どもたちや家族に手を差し伸べ、
健康にプラスとなる影響を与えています。

ネスレのコミットメント

本報告書で紹介する42のコミットメントは、
ネスレの全社的な取り組みを具体的な目標達成へと導くものです。

右の表は主な実績の一部をまとめたもので、共通価値の創造の注力分野においてネスレが実現した進捗をわかりやすく表しています。

栄養・健康・ウェルネス

8,856

栄養や健康に配慮して改良した製品数

2,070 億サービング

微量栄養素を強化した食品飲料のサービング数

農村開発

1億 2,900 万本

農業従事者に配布したコーヒー苗木の数
2020年までの目標2億本に対して（2010年以降の累計）

363,000 人

能力構築プログラムを通じて研修を受けた農業従事者の数

水

25 %

製品1トンあたりの取水量を
2010年と比較して削減した割合

370 万m^3

516件の節水プロジェクトを通じて
節約した水の量

環境サステナビリティ

39 %

製品1トンあたりの排出量を
削減した割合（2006年以降の累計）

182 カ所

廃棄物ゼロを達成した工場数
（全体の39%）

人材、人権とコンプライアンス

15,666 人

ビジネスと起業スキルの
研修を受けた女性の数

9,573 人

FTSE4Goodの言う懸念国で
人権に関する研修を受けた社員数

ネスレのCSVパフォーマンス

ネスレの主要パフォーマンス指標(KPI)は、共通価値の創造(CSV)、サステナビリティおよびコンプライアンスの評価と報告に焦点を当てています。以下のパフォーマンス概要は、国連グローバル・コンパクトの原則に基づいた進捗状況に関する報告書の一部です。特に注記のない限り、パフォーマンス指標は2016年12月31日を最終日とした2016年のものです。ステークホルダーに対する透明性を高めるため、下の表にはネスレのKPIとコミットメント、およびグローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)の間の相関関係を示しています。GRI欄の記載は、GRIのG4ガイドラインの該当する指標に関連しています。ネスレは、私たちの重要課題に沿って、GRIのG4ガイドラインと指標に照らして報告します。これらの課題は、ステークホルダーとの関わりを通じて特定されたものであり、ネスレのコミットメントを形成するものです。

www.nestle.com/csv/performance/kpi-summary を参照してください。

社会とネスレ、共通価値の創造に関する主要パフォーマンス指標

	GRI	2015	2016	ページ
経済指標				
グループ総売上高(百万スイスフラン)[a]	G4-EC1	88785	89469	該当なし
純利益(百万スイスフラン)[b]	G4-EC1	9066	8531	該当なし
栄養				
「ネスレ栄養基盤」の基準を満たすまたは超える製品(総売上に占める割合%)[c]	G4-EC1	81.6	83.7	13
栄養または健康に配慮して改良した製品数[d]	G4-FP7	8041	8856	13
栄養価値の高い原材料または必須栄養素を強化した製品数[d]	G4-FP7	4643	4095	13, 14
食塩、糖類、トランス脂肪酸、総脂質、カロリーまたは合成着色料を削減した製品数[d]	G4-FP6	5471	5777	13, 16
製品試験プログラム「60/40+(シックスティ・フォーティー・プラス)」で分析、改善または確認した製品(売上高、百万スイスフラン)[e]	G4-PR1	33657	34426	13
ブランディド・アクティブ・ベネフィット(BAB、ネスレが認めた健康価値ブランド)を取り入れた製品(売上高、百万スイスフラン)	G4-FP7	6193	6174	13, 14
「ネスレ ニュートリショナルコンパス(栄養情報・製品情報)」の表示製品(世界総売上に占める割合%)[f]	G4-PR3	92.8	96.4	19
パッケージ前面にカロリーガイド表示(GDA)がある製品(売上に占める割合%)[g]	G4-PR3	89.2	92.3	19
ポーションガイダンス(1食分を知らせるさまざまな工夫)を施した製品(売上高、百万スイスフラン)	G4-PR3	35562	45333	20
手の届く価格帯の製品の品目数	G4-EC1	4845	4845	13
手の届く価格帯の製品(売上、百万スイスフラン)	G4-EC1	11599	12341	13
責任あるマーケティング方針に準拠した12歳未満の子ども向けネスレテレビ広告の割合(%)	G4-PR7	97	98.7	17
WHOの母乳代替品のマーケティングに関する国際基準の履行を目指したネスレの方針と指示への違反[h]	G4-PR7	36	19	16
WHO基準に準拠した教育を受けた高リスク国にいる乳児用調製粉乳マーケティングスタッフ(全スタッフに占める割合%)[i]	G4-PR6	100	100	16
農村開発				
能力開発プログラムを通して研修を受けた農業従事者数		400000	363000	24
ネスレ持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)プログラムの対象市場数		52	53	24, 31
SAINプログラムによって直接調達が実施されている市場の割合(%)		97	97	24, 31
『ネスレ サプライヤー規約』を完全に順守して調達された取引高の割合[n]	G4-FP1	82	61	25
水[j]				
総取水量(百万m^3)	G4-EN8	141	138	28
総取水量(製品1トンあたり m^3)	G4-EN8	2.57	2.48	28
環境サステナビリティ				
生産量				
総生産量(百万トン)		54.6	55.8	n/a
原料				
原材料使用量(百万トン)	G4-EN1	24.7	24.9	n/a
包装に使用する原料(百万トン)	G4-EN1	5.3	5.0	35
包装原料の削減量(達成削減量 千トン)		58.2	22.5	35
エネルギー				
総エネルギー消費量(ペタジュール)		93.8	92.9	33
総エネルギー消費量(製品1トンあたりのギガジュール)		1.72	1.67	33
再生可能エネルギー使用割合(総量に占める割合 %)	G4-EN3	15.4	16.9	33, 34

社会とネスレ、共通価値の創造に関する主要パフォーマンス指標

	GRI	2015	2016	ページ
直接エネルギー総消費量(ペタジュール)	G4-EN3	63.8	63.2	33
再生可能直接エネルギー使用割合(総量に占める割合 %)	G4-EN3	11.8	12.1	33
間接エネルギー総消費量(ペタジュール)	G4-EN4	80.9	78.4	33
生物多様性				
自然保護地域にある製造施設の合計規模 (ヘクタール)	G4-EN11	18.8	18.8	36
排出、排水、廃棄				
温室効果ガス直接排出量(百万トン CO_2eq)	G4-EN15	3.7	3.6	33
温室効果ガス直接排出量(製品1トンあたり kg CO_2eq)	G4-EN15	68	65	33
温室効果ガス間接排出量(百万トン CO_2eq)	G4-EN16	3.7	3.5	33
温室効果ガス間接排出量(製品1トンあたり kg CO_2eq)	G4-EN16	69	62	33
総排水量(百万m^3)	G4-EN22	80.5	78.1	30
総排水量(製品1トンあたり m^3)	G4-EN22	1.47	1.4	30
排水の水質平均(COD値 mg/L)	G4-EN22	70.9	72	30
副産物量(製品1トンあたり kg)	G4-EN23	29.3	29.7	34
廃棄物量(製品1トンあたり kg)	G4-EN23	3	1.9	34
環境サステナビリティの管理				
ISO 14001認定の製造施設(製造施設全体に占める割合 %)		92	94	該当なし

人権とコンプライアンス

重大な製品リコールまたはコンプライアンス違反の総数	G4-PR2	6	10	該当なし
人権影響評価の完了件数	G4-HR9	2	1	38
人権について教育を受けた社員数		11 242	10 967	38

人材

社員数[a]		335 213	328 221	該当なし
会社全体での新規採用者率(%)[k]	G4-LA1	11.1	11.1	該当なし
会社全体での離職率(%)[k]	G4-LA1	12.5	12.4	該当なし
ビジネスインテグリティ(事業活動の統治)と人事関連で確認されたコンプライアンス違反件数[l]		12	7	39
内訳：軽度		12	7	39
中度		0	0	39
重度		0	0	39
休業を伴う負傷と疾患率(百万労働時間あたり)(社員、請負契約者、その他)[j]	G4-LA6	2.05	1.93	40
報告対象になる総負傷と疾病率(百万労働時間あたり)(社員、請負契約者、その他)[j]	G4-LA6	3.42	3.13	40
死亡件数(社員、請負契約者、その他)[j]	G4-LA6	10	4	40
事業部門ごとの年間平均研修時間[m]	G4-LA9	31.6	38.8	43
管理職に占める女性の割合(%)[k]	G4-LA12	34.0	35.4	40
途上国の現地法人経営陣に占める現地出身者の割合(%)[k]	G4-EC6	63.3	73.3	該当なし

(a) 合弁事業は含まない。

(b) ネスレの合弁事業の正味持ち分を含む。

(c) ネスレ全社(シリアル・パートナーズ・ワールドワイド[CPW]を除く食品飲料事業、ネスレ ヘルスサイエンス[NHSc]、医薬品事業、ネスプレッソ事業、GLOBEレポーティングに含まれない事業)。評価対象の全製品のうち、ネスレ栄養プロファイリングシステム(NNPS)の基準に適合する製品の割合(%)。

(d) 78%の工場からの報告に基づく。製品によっては、ある成分を「減らす」と同時に他の成分を「増やす」場合もある。

(e) 「60/40+」プログラムでは、消費者が参加してテストを行ったネスレ製品が、競合製品に比べて好まれなければならない。評価結果は、すべての条件に変化がなければ、最長3年間有効とする。

(f) ペットケア、ガーバーライフ、ネスレヘルスケアニュートリション、Wyethニュートリション、その他のネスレヘルスサイエンス事業およびネスレウォーターズのネスレブランド以外の製品を除く。

(g) すべての食品飲料事業と、プレーンウォーターを除くネスレ ウォーターズを含む。合弁事業、ネスレ ニュートリション、Wyeth、ネスレ ヘルスサイエンス、および除外対象の特定のカテゴリー／国は除く。

(h) 監査役が実施した内部監査と、ビューロー・ベリタスが実施した外部監査に基づく件数。一部の検証結果は現在も評価中であるため、最終的な違反件数は変わる可能性がある。コンプライアンスに関するアニュアルレポートは、ネスレのウェブサイトで閲覧できる。

(i) ネスレではFTSE4Good(フィッチフォーグッド)母乳代替品のマーケティング基準を順守しており、同基準で「高リスク」国とは、5歳未満の死亡率が1,000人中11人以上、もしくは5歳未満の急性栄養失調率が2%超の国である。それ以外の国は「低リスク」とした。

(j) 合弁事業を含む。

(k) 人事システムに登録されたネスレの社員が対象(全社員の約84%)。

(l) 監査企業3社によるグローバルな外部監査プログラムCAREによって、全社員とネスレが所有、運営する全施設が現地の法律と社内の『経営に関する諸原則』と『考働規範』を順守していることを確認している。監査は3年ごとに実施。

(m) 研修時間は、学習管理システム(LMS)に記録された情報のみに基づく。手作業で記録した研修時間を考慮すると、数値はこれより大きくなる(LMSを新たに導入した2015年の場合と同様)。社員1人あたりの研修時間は、システムに登録された従業員の100%を対象に含む。

(n) 2015年の一次サプライヤー監査の対象範囲は、直接材料のみ。2016年には、サービスと間接材料も50%を目標として含むように対象範囲が拡大された。

会長とCEOからのメッセージ

2016年は、ネスレにとって二つの重要な節目にあたる年でした。

一つは、ネスレが創業150周年を迎えたことです。ネスレの歩みは、アンリ・ネスレが乳児用シリアルを開発したことに始まり、以来、「生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します」という存在意義に沿って企業活動を行ってきました。

ネスレは日々、世界中の何十億という人々の生活に関わっています。ネスレ社員から、原料の栽培にあたる農業従事者、ネスレ製品を楽しんでくださる家族まで、ネスレの事業所がある現地のコミュニティ、そしてすべての人が依存する自然環境にも関わりをもっています。敬意に根差したネスレの価値観によって導かれ、ネスレはパートナーの皆さまとともに共通価値の創造に取り組み、ビジネスの長期的な成功を確実なものにしながら社会に貢献しています。

ここに、2016年版の『Nestlé in society』をお届けします。この報告書は、私たちの進捗状況を説明し、ネスレの存在意義と意欲的な目標、そして42の具体的なコミットメントがどのように社会に貢献しているかを紹介するものです。

ネスレの共通価値の創造における優先課題は、ネスレの事業と社会が最も深く交わり、私たちが最大の価値を創造し最大の変化をもたらすことができる分野にあります。まず、「栄養」の分野では、乳幼児と子どもに強く重点を置いて、個人や家族のさらに健康で幸せな生活を実現させるコミットメントにしました。「農村開発」の分野では、困難に負けない活気あるコミュニティの育成と、私たちがともに暮らし、ともに働く人々の生活向上の支援に取り組んでいます。「水」の分野は、地球にとって重大な懸念のある問題であり、食料安全保障の要となる分野です。未来の世代のために天然資源を守るというネスレの決意を強く打ち出すため、私たちは「水」と「環境サステナビリティ」の分野のコミットメントを強化しました。

以上のすべての取り組みを支えているのは、コンプライアンス、人権、社員に対する確固としたアプローチです。ネスレは人権、公正雇用、多様性を尊重し、推進しています。世界規模で重要な懸念となっている問題の一つに、若者の高い失業率があります。その対策として、ネスレでは他社やパートナーにも参加を呼びかけながら、「グローバルユース・イニシアチブ」の拡大を継続しています。

ネスレが2016年に迎えた二つ目の節目は、国際連合の「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択から1周年を迎えたことです。これらの目標においては、明確な指標枠組みが定義され、民間部門の役割と共通価値の創造の精神に基づく民間部門の貢献がしっかりと認識されています。

これらの目標は、2030年までに貧困、飢餓、不平等を撲滅し、地球の天然資源を保護するためのビジョンを示しています。17項目ある目標は、ネスレの共通価値の創造のアプローチと密接に結び付いており、そこに取り入れられています。ネスレは、最も重要でプラスの影響をもたらすことのできる目標に重点を置いています。

SDGsの時間軸を反映させるため、私たちは2030年に向けた一連の包括的で意欲的な目標を定めました。これはネスレの行動の指針となり、2020年コミットメント（10ページ参照）の方向性を示すものです。

ネスレは事業をするための共通価値の創造のアプローチを通じてだけでなく、協力や連携、ステークホルダーとの関わりも通じて、SDGsの達成に向けて積極的に役割を果たしています。たとえば、コンシューマーグッズフォーラムを通じ、健康とウェルネス、社会の持続可能性、気候変動、環境サステナビリティに関する決議やコミットメントによって、グローバルな共通課題の策定を支援しています。

ネスレは2016年も前年までと同様に、企業サステナビリティリーダーシップとSDGsへの共同関与のための重要なプラットフォームである国連グローバル・コンパクトLEADの提唱メンバーとして、国連グローバル・コンパクトを支持することを表明しました。

以上のような取り組みの根底には、敬意に根差したネスレの価値観があります――すなわち、私たち自身と他者、私たちが暮らす世界の多様性、そして未来に敬意を

払うことです。ネスレの『経営に関する諸原則』と『考働規範』は、私たちの責任を明確に定めています。

本報告書を含めた各種の報告書を通して、透明性、改善、関与の姿勢が、ネスレのあらゆる行動の原動力となっていることをおわかりいただければと願っています。共通価値の創造委員会とその他多くのステークホルダーが、その見識と建設的な批判を通じて私たちの活動を導いてくれます。

投資家の皆さまには、企業の業績を財務的観点と社会的観点の双方から見て、経営陣がその両面を企業のガバナンス、戦略、経営にどのように統合しているかを評価していただきたいと考えています。そのため、今年の報告書には投資業界向けのセクションを設けています。

何よりも重要なのは、共通価値の創造とは、私たちの企業としてのあらゆる行動を通じて、株主の皆さまや社会全体に長期的にプラスの影響をもたらす手段であるというネスレの基本的な信念を、この報告書が示しているということです。共通価値の創造は、ネスレが社会と同様に株主の皆さまにも、価値創造を最大化する活動に的を絞った事業戦略であるという点で、他にはない独自のものです。

ネスレのコミットメントと本報告書に関する皆さまからのご意見をお待ちしております。

ピーター・ブラベック-レッツマット
会長

ポール・ブルケ
CEO

コートジボワールで開催された共通価値の創造フォーラムの期間中に、ザンバクロ実験農場を視察する、ネスレ会長のピーター・ブラベック-レッツマット。この農場はネスレのアビジャン研究開発センターの付属施設で、視察にはアジア・オセアニア・サハラ以南アフリカ責任者のワン・リン・マルテロが同行しました。

中国雲南省普洱市の「ネスカフェ」コーヒーセンターの開所式で挨拶する、ネスレCEOのポール・ブルケ。式には現地自治体政府の代表者や、業界のリーダー、コーヒー栽培業者らが出席しました。

ネスレが社会に与えるプラスの影響

共通価値の創造(CSV)とは、
企業としてのあらゆる行動を通じて、
株主の皆さまと社会に長期的に
プラスの影響をもたらすための
ネスレのアプローチです。

共通価値の創造は、ネスレが株主の皆さまと社会のために、価値創造を最大化する活動に的を絞った事業戦略であるという点で、他にはない独自のものです。

10年前に共通価値の創造のアプローチを導入したことで、私たちは事業上のメリットと社会的な影響を結び付けるための戦略を特定し、運用し、管理することができるようになりました。以来、ネスレは大きな進歩を成し遂げ、2012年には継続的な向上を推し進めるための一連のコミットメントを打ち出しました。

ネスレが社会に与えるプラスの影響は、すべての注力分野で顕著に表れています。過去10年間に公表した主な実績の一部をここに紹介します。ネスレの事業へのアプローチの原動力である共通価値の創造の背景にある原則は、創業以来150年間、私たちが持ち続けているものです。

サステナビリティ推進に
率先して取り組み、
未来に向けて協力
ネスレの子ども向け
プログラムにより、
約5,000万人の子どもの
食生活と運動習慣を改善
ユース・イニチアチブを通じ、
数十万人の若者の
就業を支援
51万3,000人に
清潔な水と公衆衛生を
利用する機会を提供
200万人の女性の
スキル開発を支援

共通価値の創造を基盤として

未来に向けて、共通価値の創造はネスレの事業活動の指針となる基本的な原則であり続けます。共通価値の創造は、株主の皆さまと社会に価値を創出するためにネスレがとるあらゆる行動を運用し、管理するために用いる戦略ツールです。これが、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献しますというネスレの存在意義を実現する方法です。

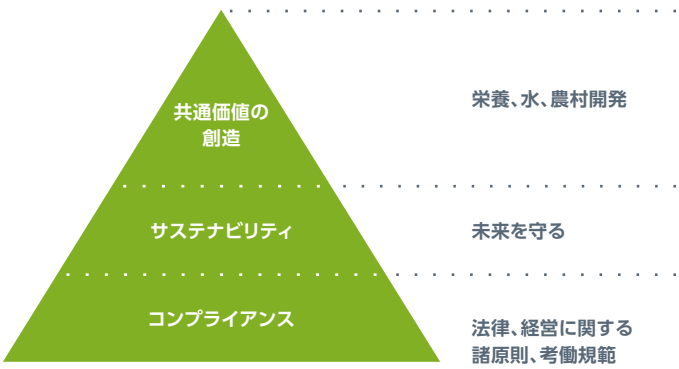
ネスレの注力分野は、私たちの存在意義に深く根差しています。個人と家族、コミュニティ、そして地球全体は相互につながっており、各注力分野におけるネスレの取り組みは、42の具体的なコミットメントによって支えられています。今回、これらのコミットメントの大部分が見直され、2020年に向けた目標として再設定されました。これらのコミットメントに取り組むことで、2030年に向けたネスレの長期的な目標を、「持続可能な開発目標（SDGs）」の時間軸に沿って実現することができるのです。

存在意義と計画によって、株主の皆さまと社会全体に価値を創造することで事業が長期的に成功するというネスレの基本的な信念を貫きながら、共通価値の創造をさらに一歩進めることができます。ネスレが社会に与えるプラスの影響は、個人と家族のさらに健康で幸せな生活の実現、困難に負けない活力のあるコミュニティの育成、そして、水の保全を特に念頭に置き、未来の世代のために地球の天然資源を守ることに焦点を合わせています。

ネスレの歴史が新たな時代に入ろうとしている中、私たちはネスレの事業手段としての共通価値の創造へのアプローチを引き続き発展させるとともに、共通価値の創造という考え方を私たちのあらゆる活動、方針と行動に引き続き浸透させていきます。

また、株主の皆さまと社会全体に最大価値を創造できる重要分野の優先順位づけと、透明性のある進捗報告も継続していきます。進捗状況については、主要指標におけるネスレの評価からも追うことができます。

共通価値の創造



共通価値の創造が投資家にとって重要な理由

ネスレの会社定款には、ネスレは事業目的の追求において、長期的に持続可能な価値創造を目指すと定められています。この規定は、共通価値の創造（CSV）はネスレの事業手段である――すなわち、株主の皆さまのためになることは、社会のためにもならなければならない、というネスレの基本的な信念と完全に合致しています。

投資家の間では、企業価値は無形のものにあり、財務収支表を見るだけではもはや不十分だという認識が次第に広まっています。「責任投資原則」や、ネスレも支援する「持続可能な証券取引所」などの国際的イニシアチブが、責任ある投資の促進と持続可能な開発の主流化において果たす役割が拡大しつつあります。

特に長期投資家にとっては、共通価値の創造は、企業の長期的な健全性を支えるという点で重要です。ネスレでは、株主の皆さまと社会をともに重視し、共通価値の創造アプローチで事業に取り組むことで、社会の期待に沿う製品やサービスを明らかにしています。

例えば、ネスレは先頃、製品試験プログラム「60/40+（シックスティ・フォーティー・プラス）」と「ネスレ栄養基盤」の基準に照らした栄養・健康・ウェルネス（NHW）面の評価が平均を上回る事業部門の業績を分析しました。その結果、これらの事業部門は、NHW面の評価が平均に満たない事業部門よりも業績が良いことがわかりました。

ネスレの先進的な重要課題分析（44ページ）は、訴訟などの可能性を含めた消費者動向を予測する上で役立っており、これによってネスレは、持続可能な言動を求める消費者の期待に応えていくことができます。最新のマトリックスでは、ネスレの事業戦略の実施において過剰栄養と低栄養、水資源、責任あるマーケティングなどの課題が中心である一方、事業の成功には気候変動と人権が重要であることが示されています。

本報告書は、ネスレのコミットメント、目標、および進捗状況を毎年紹介するとともに、ネスレの事業の概況をご説明することにより、さまざまな課題に関するネスレの実績を投資家の皆さまにご理解いただくものです。ウェブサイトで公開している完全版の報告書では、さらに詳しい説明を行い、グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）のG4ガイドラインや、国連の指導原則報告枠組みなどその他の主要な枠組みを用いて、業界他社との比較もできるデータを提供しています。

報告書の情報は、ネスレの実績や進捗状況を評価するための主要指標にも使用されています（8ページ参照）。

「持続可能な開発目標」の採択により、企業や投資家が共同で、持続可能な社会の創造に大きな貢献をする機会が生まれました。本報告書に対するご意見をお待ちするとともに、ここに挙げたさまざまなテーマについて、投資家の皆さまと対話を持つ機会を楽しみにしております。

投資家のメリット

注力分野別の投資家のメリットについては、22、26、31、36、43ページをご覧ください。

グローバルアジェンダへのネスレの貢献

ネスレでは、共通価値の創造における課題を、国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と密接に関連付けています。民間部門も、17項目の「持続可能な開発目標(SDGs)」の策定に参加する機会を得たことで、目標の実現に向けて責任を持って取り組めるようになりました。

SDGsを共通価値の創造アプローチに統合したことにより、ネスレが最も多くの価値を生み出すことができる目標を特定できるようになりました。この目的のため、ネスレの重要課題をSDGsと対応して図表化しました。この図はオンライン版の共通価値の創造報告書で公表されています。

生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献しますという存在意義に動機付けられ、ネスレは2020年コミットメントの達成とSDGsの達成支援に向けた取り組みの指針となる以下の3つの包括的で長期的な目標を設定しました。

- さらに健康で幸せな生活を実現させる：5,000万人の子どもたちがさらに健康な生活を送れるようにするための支援など
- 困難に負けない、活力のあるコミュニティを育成する：ネスレの事業活動に直結するコミュニティに暮らす3,000万人の生活向上の支援など
- 未来の世代のために資源を守る：ネスレの事業活動における環境負荷ゼロを目指す取り組みなど

これらの長期的な目標は、私たちは皆、相互につながり合った世界の中で生きており、私たちの未来は分かちがたく結び付いているという認識から生まれています。

私たちはネスレの事業規模を活用して、これらの長期的な目標の実現を目指します。しかし、SDGsの達成は、地方レベル、国レベルおよび国際レベルでのさらに効果的でダイナミックな協力関係がなければ実現できません。ネスレは自らの役割を果たすよう努力するとともに、他の組織にもこの共同の取り組みに参加するよう促していきます。市民社会、各国政府その他の方々と力を合わせ、実現を目指します。

主要指標の2016年のパフォーマンス

FTSE4Good

業界初
ネスレは、母乳代替品メーカーとして初めてFTSE4Good(フィッチフォーグッド)指標に登録され、5年連続でその地位を維持しています。

ACCESS TO NUTRITION INDEX™

第2位
ネスレは、2016年の栄養へのアクセス指標(ATNI)において、世界的な食品飲料メーカー22社のうち第2位にランクされました。

MEMBER OF Dow Jones Sustainability Indices In Collaboration with RobecoSAM

第1位
2016年のダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)で、ネスレは、総合スコアで100点中92点の評価を受け、3つの側面(経済、環境、社会)すべてで業界第1位でした。DJSIは、世界の上位2,500社のパフォーマンスを評価する世界的に認められた独立指標です。

第5位
ネスレは、経済誌『フォーチュン』が、「善いことをして良い業績を残す」企業50社を毎年発表する「世界を変える企業(Change the World)」ランキングで、2016年、第5位にランクされました。

CDP DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

A-
2016年10月、ネスレは、CDPウォータープログラムで'リーダーシップ'レベルのスコアA-の評価を受けました。

100A
2016年11月、ネスレは、環境サステナビリティに関する格付機関CDPが発表する気候変動情報開示リーダーシップ・インデックスにおいて、100Aの評価を受けました。

OXFAM

第2位
ネスレは、NGOオックスファムによる「ビハインド・ザ・ブランド」の2016年4月の得点表で、第2位にランクされました。

ネスレの存在意義

生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します

ネスレの長期的な目標

個人と家族のため

さらに健康で幸福な生活を実現します

コミュニティのため

困難に負けない、
活力のあるコミュニティを育成します

地球のため

未来の世代のために資源を守ります

共通価値の創造の注力分野

栄養・健康・ウェルネス

農村開発

水

人材、人権と
コンプライアンス

環境サステナビリティ

長期的な目標を通じて、
ネスレは持続可能な開発目標を支援しています

ネスレのコミットメントの紹介

ネスレは、パフォーマンスについての公的な説明責任を負うために、このコミットメントを公表し、進捗状況を毎年報告しています。2016年には、このコミットメントについて社内で全面的に見直し、ネスレの長期的な目標に沿って、これまで以上に広く、踏み込んだ行動をとるための新たなコミットメントを導入しました。42のコミットメントはすべてネスレの事業に直接的に関連しており、その大部分は、2020年までの目標によって支援されています。

12 ページ

栄養・健康・ウェルネス

- 特に妊娠中や出産後の女性と子ども向けに、栄養のある食品飲料製品の発売を増やす
- 糖類、食塩、飽和脂肪酸をさらに削減する
- ネスレの食品飲料製品に含まれる野菜、食物繊維の豊富な穀類、豆類、種実類を増やす
- 微量栄養素の強化を通じて、低栄養の問題に取り組む
- ネスレの製品材料リストを簡素化し、合成着色料を除去する
- 母乳代替品の適正な販売に関する業界最高レベルの方針を継続的に実行することにより、母乳育児を支援する
- 親や保護者、教員による子どもの健康的な行動育成を支援する
- 子ども向けのマーケティングは、栄養バランスの良い食事に役立つ製品に限る
- 健康的な水分補給のための第一の選択肢として、水を推奨する
- ネスレのマーケティング活動を利用して、健康に良い料理、食習慣、ライフスタイルを奨励する
- パッケージ、店頭とウェブサイトで栄養情報を表示し、説明する
- ネスレ製品のポーション（1食分）ガイダンスを提供する
- 健康的な食環境を推進するための協力活動を行う
- 初めの1,000日から健康的な加齢までの栄養に関する知識を構築し、共有する
- 健康を促進する製品、パーソナルニュートリション（個別化した栄養）、デジタルソリューションにつながる生物医科学を推進する

23 ページ

農村開発

- 農業従事者のニーズを理解するために農村開発基礎評価を実施する
- ネスレのサプライヤーである農業従事者の農場の経済状態を改善する
- ネスレのサプライヤーである農業従事者の食料の入手可能性と食事の多様性を改善する
- サプライチェーンにおける責任ある調達を実施し、動物福祉を推進する
- カカオ農家とともに「ネスレ カカオプラン」を実施する
- ネスレのコーヒー生豆サプライチェーンを継続的に改善する

27 ページ

水

事業全体における水の利用効率と
サステナビリティの向上に取り組む

効果的な水の利用方針と水の管理を推進する

適切に排水を処理する

サプライヤー、特に農業従事者と協力する

水の保全意識を高め、
バリューチェーン全体での
水と公衆衛生へのアクセスを改善する

32 ページ

環境サステナビリティ

気候変動リーダーシップを提供する

気候政策における透明性と
積極的な長期的取り組みを推進する

食品ロスと廃棄を削減する

ネスレ製品パッケージの
環境パフォーマンスを改善する

製品が環境に与える影響を
評価し最適化する

有意義で正確な環境情報を
提供し対話する

森を含む自然資本を保全する

37 ページ

人材、人権と
コンプライアンス

事業活動全体における
人権への影響を評価し対処する

ネスレの農業サプライチェーンにおいて
労働者の生活を改善し、
子どもを保護する

組織全体で誠実な企業風土を醸成する

認証を受けた
安全衛生マネジメントシステムで
ネスレの全社員を守る

社員の男女比バランスを改善し、
バリューチェーン全体で
女性の地位を向上させる

社員とステークホルダーに
実効性のある苦情処理の仕組みを提供する

事業全体において
グローバルユース・イニシアチブを実施する

『ネスレの経営に関する諸原則』、栄養、
環境サステナビリティに関する
研修を実施する

健康的な職場と
社員の健康増進を奨励する

栄養・健康・ウェルネス

ネスレは、創業者アンリ・ネスレの精神を受け継ぎ、栄養を中心としたネスレの価値観に導かれ、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献する製品、サービス、知識を個人と家族の皆さまにお届けするためにパートナーとともに取り組みます。この取り組みを通じて、5,000万人の子どもたちがより健康的な生活を送れるよう支援するという、ネスレの2030年に向けた長期的な目標の実現を目指します。

ネスレ ペルーによるプログラム「El Plato más Rico del Perú（ペルーの食事をもっと豊かに）」では、親や保護者が子どもたちのためにバランスのとれた食事を適切な分量（ポーション）で作れるよう支援しています。

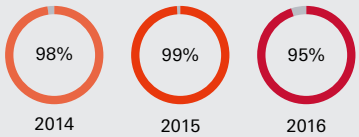
特に妊娠中や出産後の女性と子ども向けに、栄養のある食品飲料製品の発売を増やす

適切な栄養摂取は、胎児の時から人々の生活に影響を与えます。従って、個人と家族の皆さまに、食事で不足しがちな栄養素をより多く摂取できる、おいしく健康的な選択肢があることが重要です。

現在までの私たちの進捗状況

私たちは、ネスレの子ども向け食品飲料製品をネスレ栄養プロファイリングシステム（NNPS）の基準に照らして評価し、「ネスレ栄養基盤（NF）」に適合するかどうかを判定することにより、製品の継続的な改善を目指しています。食品飲料製品は、NFに適合するための基準をすべて満たしていることが必要です。そのような製品を、消費者にとってバランスのとれた食事の一部として適切であるとみなします。

「ネスレ栄養基盤」の基準を順守する子ども向け食品飲料製品の割合（%）



栄養があり、しかもおいしい製品をつくることは難しいことですが、個別のイノベーションと綿密なモニタリング、および行動計画により、2016年末までにネスレの子ども向け食品飲料製品の95%がNNPSのすべての基準を満たし、NF適合と認められました。これらの製品には、低所得の家庭でも高品質で栄養のある食品飲料を消費できるように、適切なサービングサイズ、パッケージと流通経路を採用した「手の届く価格帯の製品（PPP）」も含まれています。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、先進国と発展途上国の両方で、乳幼児、12歳までの子ども、妊娠中や出産後の女性の1日あたりの栄養必要量と主要な栄養素の不足に対応した食品飲料製品を開発し、発売すること。

乳幼児と子どものためのコミットメント

- ● 達成済
- ◐ 進行中
- ◔ 進行中（期限後）
- ⊕ 新たな目標

糖類、食塩、飽和脂肪酸をさらに削減する

ネスレの食品飲料製品に含まれる糖類、食塩、飽和脂肪酸を削減し、部分水素添加油（PHO）由来のトランス脂肪酸を完全に除去することは、おいしく健康的な製品を提供するというネスレのコミットメントにとって重要です。科学に基づく段階的なリノベーションを通じて、ネスレの食品飲料製品におけるこれらの含有量を削減することにより、人々の健康の改善と非伝染性疾患（NCD）の予防に寄与することができます。

2016年の私たちの目標

- ◔ 2016年までに、「ネスレ栄養基盤」の糖類に関する基準を満たしていない製品で、糖類含有量をさらに10%削減し、製品ポートフォリオのうち実現がより困難な分野を含めて継続的に改善すること。
- ● 2016年までに、「ネスレ栄養基盤」の食塩に関する基準を満たしていない製品で、食塩含有量をさらに10%削減し、製品ポートフォリオのうち実現がより困難な分野についても徐々に削減すること。
- ◔ 2016年までに、「ネスレ栄養基盤」の飽和脂肪酸に関する基準を満たしていない製品で、飽和脂肪酸をさらに10%削減すること。
- ● 2016年までに、ネスレの食品飲料製品から部分水素添加油（PHO）由来のトランス脂肪酸を除去すること。

現在までの私たちの進捗状況

2016年末までに、ネスレ製品に添加される糖類の含有量を8%削減しました。これは、重量にして39,000トンに相当します。ネスレは、糖類の削減に関する新しいコミットメントを通じて、この分野の取り組みを継続していきます。

10.5%
食塩削減目標10%を上回る削減を達成

消費者が1日あたりの食塩摂取量を、世界保健機関（WHO）が推奨する2g（ナトリウムとして）に抑えることができるように、ネスレ製品の食塩量を削減する取り組みも継続しています。2016年末までに、ネスレの食品飲料製品の食塩量を10.5%削減しました。これは食塩の総重量にして2,700トンの削減に相当します。目標の10%を上回る削減を達成しましたが、ネスレは食塩削減に関する新しいコミットメントを通じて、この分野の取り組みを継続していきます。

2016年までに、飽和脂肪酸の含有量を6.5%削減しました。これは、重量にして6,200トンに相当します。製品ポートフォリオ全体で飽和脂肪酸を削減するには、新たな技術の開発、安定性試験の実施、設備投資が必要になります。よりおいしく健康的な選択肢を消費者に提供しながら、こうした活動を完了させるためには、さらに時間が必要であることから、このコミットメントの達成期限を延長しました。

ネスレの食品飲料製品に使用される油脂類の99.8%以上が、2017年1月1日からPHO由来のトランス脂肪酸を含まないものになります。

新しい目標により、ネスレの食品飲料製品の糖類、食塩、飽和脂肪酸の含有量を、2020年までにさらに削減します。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、ネスレ製品に添加する糖類を5%削減し、個人と家族の皆さまが国際的な推奨量を守れるように支援すること。
- ⊕ 2020年までに、ネスレ製品に添加する食塩を10%削減し、個人と家族の皆さまが国際的な推奨量を守れるように支援すること。
- ⊕ 2020年までに、「ネスレ栄養基盤」の飽和脂肪酸に関する基準を満たしていないすべての該当製品で、飽和脂肪酸を10%削減するため、2014年に定めた10%のコミットメントを達成すること。

ネスレの食品飲料製品に含まれる野菜、食物繊維の豊富な穀類、豆類、種実類を増やす

バランスのとれた食事には、食物繊維やビタミン、ミネラルその他の必須栄養素の優れた摂取源である野菜、穀類、豆類、種実類などの材料を取り入れることが必要です。世界各地の食事摂取に関する研究では、人々が日常的に選ぶ食品に、子ども向け、大人向けを問わず、このような栄養価の高い食品が不足していることが示されています。私たちは、ネスレ製品を通じて、また、健康的な調理法の推進や、適切な場合にはパッケージ上やウェブサイトで栄養ガイダンスを提供することにより、こうした食品の摂取を奨励したいと考えます。

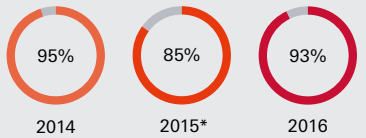
現在までの私たちの進捗状況

ネスレでは、シリアル・パートナーズ・ワールドワイド(ゼネラル・ミルズとの合弁事業)を通じて、子ども向け(12歳未満)とティーンエイジ向け(12歳以上18歳未満)のすべてのシリアルブランドにおける全粒穀物の要件を設定しました。この要件を満たすことを示す「全粒穀物マーク」のついたネスレの朝食シリアルはすべて、1サービングあたり8g以上の全粒穀物が含まれており、店頭で見つけやすいように、パッケージ上部に緑色のバナーがついています。

ネスレはこの要件をさらに越えて、子ども向けとティーンエイジ向けの朝食シリアルに含まれる全粒穀物の割合を他のどの原材料よりも高くしたいと考えており、2015年から、主要材料としての全粒穀物の分類基準を厳格化しています。この基準のもとで、現在、ネスレの子ども向けとティーンエイジ向けのシリアルの93%が全粒穀物に関する目標を達成済みです。

全粒穀物の含有量を増やすとシリアルにさまざまな影響を与えます。食感、味と賞味期限が変わります。このためネスレでは、製品に加えた変更が消費者の好みにマイナス影響を与えていないことを慎重に確認するように努めています。

子ども向けとティーンエイジ向けの朝食シリアルのうち、1サービングあたりの全粒穀物の割合が他のどの原材料よりも高い製品の割合(%)



*2015年には、より厳格な全粒穀物の評価法を導入しました。

子ども向けとティーンエイジ向けの朝食シリアルで、1サービングあたりに含まれる全粒穀物の割合を他のどの原材料よりも高くするという2015年の目標を踏まえ、2020年に向けた新しい目標では、ネスレの食品飲料製品に含まれる野菜、穀物、豆類、ふすま、種実類の増量をさらに推進していきます。また、ネスレのそのままで食べられる朝食シリアルが、食物繊維と必須栄養素のますます重要な摂取源となるように取り組んでいきます。

2020年に向けた私たちの目標

- 2020年までに、少なくとも7億5,000万食の野菜、3億食の栄養価の高い穀物、豆類、ふすまと、より多くの種実類をネスレ製品に追加すること。
- 2020年までに、すでに全粒穀物が最も割合の高い原材料になっているネスレの子ども向けとティーンエイジ向けのそのままで食べられる朝食シリアルに加えて、ネスレの全シリアル製品を食物繊維(できるだけ多く全粒穀物由来の食物繊維を含む)の摂取源とすること。

微量栄養素の強化を通じて、低栄養の問題に取り組む

世界の人口の30%以上にあたる20億人の人々が、必須ビタミン、ミネラルの欠乏に苦しんでいるといわれています。なかでも不足しているのは、「4大」微量栄養素である鉄、ヨウ素、ビタミンA、亜鉛です。微量栄養素の欠乏は、乳児や幼児、女性に特に大きく影響し、健全な発育の妨げにつながります。これは致命的な結果を招くおそれがあり、精神機能障害や健康状態の悪化、生産性の低下、重篤な場合は死亡につながることもあります。軽度から中度の欠乏でも、ウェルビーイング(心身ともに健康で幸せな状態)や発育に影響する場合があります。こうした栄養素は、バランスのとれた多様な食事から摂取されるのが理想的ですが、特に発展途上国では必ずしも可能ではありません。ネスレには、栄養リスクに瀕する人々が日常的に摂取する食品飲料に適切な微量栄養素を添加することで、リスクのある人々の栄養状態を改善する機会と責任があります。

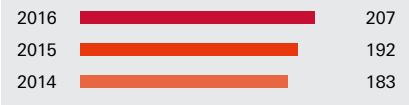
バイオフォーティフィケーション(生物学的な手法による栄養強化)も、自然のままで微量栄養素が豊富な植物品種を品種改良によって開発することにより、より栄養価の高い作物を作ることができます。この技術は、栄養強化された加工食品を入手する機会のない人々のため、主に主食を基本とした食事の栄養価向上に貢献できます。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、微量栄養素強化食品飲料製品を世界で年間2,000億サービングまで増やし、特に子どもや出産年齢の女性を対象とした世界中の微量栄養素不足の対策に役立てること。

現在までの私たちの進捗状況

世界における微量栄養素強化食品の総サービング数(単位:10億サービング)



私たちは、ネスレの食品飲料製品の微量栄養素プロファイルの改善を継続し、特定の市場でよく見られる栄養状態や不足栄養素に対応できるように、製品の栄養強化レベルを調整しています。例えば、世界的に人気が高く、市場範囲の広いネスレの「マギー」製品は、微量栄養素欠乏への対策を大規模に進めるための強固な基盤になります。2016年には、ネスレのスープ、調味料、シーズ

ニング、ヌードル製品約1,030億サービングについて、栄養強化を行いました。うち590億サービングは、鉄分を強化しました。

シリアルとミルクについても、学齢期の子どもや妊娠中の女性など栄養不足になりやすい人々に付加的な栄養を提供するための栄養強化を行っています。全体として、低所得の消費者向けの「手の届く価格帯の製品（PPP）」の83.5%は、「4大」微量栄養素のうち少なくとも1つの栄養素が強化されています。

また、ネスレは農業研究機関やハーベストプラスプログラムと協力し、バイオフォーティフィケーション（生物学的な手法による栄養素強化）を行った作物のサプライチェーンの構築と確立にも取り組んでいます。ナイジェリアでは、バイオフォーティフィケーションでプロビタミンAを強化したトウモロコシと、通常のトウモロコシをブレンドしており、2016年には、自社ブランドのシリアル粥用に1,000トン以上を確保しました。コートジボワールにあるネスレのアビジャン研究開発センターでも、マダガスカル、トルコ、ブラジル、インドのパートナーとともに、バイオフォーティフィケーションを行ったキャッサバイモ、小麦、米、トウモロコシの可能性を探っています。

2020年までの私たちの目標

- 2020年までに、数百万人の子どもと家族に栄養素強化した食品飲料製品を届けること。
- 2020年までに、10カ国において微量栄養素欠乏を減らすための共同行動を開始すること。
- 2020年までに、バイオフォーティフィケーションを行った穀物のサプライチェーンの構築と、ネスレの栄養強化製品ポートフォリオの拡大を継続すること。

***Outshine*：アイスバーをもっとヘルシーに**

アメリカにおけるネスレの主要ブランドのひとつ*Outshine*は、より健康的なアイスクリーム製品を業界で先駆けて開発しています。ネスレUSAは10年前から、フローズンフルーツバーならではのおいしさを損なうことなく、より健康的なレシピを生み出してきました。2016年、ネスレのアイスクリーム開発者らは、*Outshine*フルーツバーの上位8製品について、消費者が好む味と食感を維持しながら、果実成分を77%増やし、糖類を11%削減することに成功しました（糖類が少ないほど冷たさが増すので、これは難しい課題です）。お客さまは、本物の果実が最初に書かれたシンプルな原材料表示を見て、健康的な選択をしたとわかった上で、おいしくクリーミーなフルーツバーを楽しむことができるようになりました。けれども、ネスレの仕事はまだ終わっていません。2018年には、*Outshine*製品に添加される糖類をさらに削減する予定で、フルーツバーのおいしさを楽しみながら、果物と野菜の健康的な恩恵を得られる商品をお客さまに届け続けたいと考えています。

ネスレの製品材料リストを簡素化し、合成着色料を除去する

新しい世代の消費者は、購入する食品の栄養組成について安心を求める傾向が強くなっており、昨今の健康志向の高まりによって、透明性、信頼性、より価値の高い原材料に対する要求がますます強まっています。

現在までの私たちの進捗状況

食品飲料製品に関する消費者の新たな期待に応えるため、ネスレでは、野菜、スパイス、ハーブ、穀粉など、誰もが知っている見分けやすい天然原料の使用を重視する'キッチンカップボード'のアプローチを通じて、製品ポートフォリオの改革に取り組んでいます。'キッチンカップボード'は、材料リストの簡素化、野菜と全粒穀物の含有量の増加、食品飲料製品に含まれる食塩と糖類の削減も目指しています。

また、このアプローチを補完するものとして、人工添加物、香料、着色料の除去を加速させるとともに、こうした成分の使用について、透明性あるわかりやすい情報を提供しています。

2020年までの私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、ネスレ製品から合成着色料を完全に除去すること。
- ⊕ 2020年までに、一般になじみのない原材料を継続的に除去すること。

母乳代替品の適正な販売に関する業界最高レベルの方針を継続的に実行することにより、母乳育児を支援する

ネスレは、母乳が乳児にとって理想的な栄養であると考えています。そのためネスレは、乳児には生後6カ月間は母乳だけを与え、その後は2歳過ぎまで母乳を継続しながら、適切な栄養を補足する食品を導入するという世界保健機関（WHO）の推奨する基準（WHOコード）を奨励しています。

2016年の私たちの目標

- ◐ 推進中 – ネスレ ニュートリション事業の取り組みが、FTSE4Good（フィッチフォーグッド）指標の母乳代替品（BMS）基準を常に満たすように努めること。
- ◐ 推進中 – WHOコードの実施において業界をリードする地位を維持するための方針と手順を継続的に強化すること。
- ◐ 推進中 – WHOコードに関するネスレの方針の実施状況を継続的に公表すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、グローバルな「マタニティー保護方針」の導入により、母乳育児を支援する環境を提供できる体制を強化しました。この方針には、有給育児休暇を6カ月まで延長する権利や、柔軟な勤務体系などが定められています。現在、社内には302カ所の授乳エリアがあり、2018年までには、50人以上の女性従業員のいる全事業所に授乳室を設置する予定です。

2016年には、ネスレの「スタートヘルシー、ステイヘルシープログラム」を通じて、さまざまな公的機関や民間機関との協力により、インドに945カ所、中国に約1,500カ所の授乳室を開設しました。また、母親向けの授乳室検索モバイルアプリの開発も行いました。

ネスレは、国連が提唱した「Every Woman, Every Child」運動とクリントン財団の「クリントン・グローバル・イニシアティブ」を通じて、母乳授乳をしやすい職場環境を支援することをコミットしており、他のステークホルダーや企業にも働きかけています。

推奨されているような母乳育児が不可能な子どもについては、乳児用調製粉乳がWHOに適切と認められた唯一の妥当な母乳代替品（BMS）です。ネスレは、少なくとも世界各国の政府により施行されているWHOコードの完全な順守をコミットしています。乳児の死亡と栄養不良のリスクが高いとみなされる152カ国では、国の基準よりも厳しい独自の方針を自主的に適用しています。

ネスレは、母乳代替品メーカーとして初めてFTSE4Good指標に登録され、2011年以降、母乳代替品の責任あるマーケティングに関する厳格な基準を一貫して満たしています。また、「栄養へのアクセス」指標による母乳代替品販売の方針と活動に関するパイロット評価のサブインデックスでも、第1位にランクされました。

ネスレでは、コンプライアンスマネジメントシステムを継続的に強化しています。ネスレの母乳代替品販売活動に関する懸念を誰もが提起できる外部苦情処理システム'Tell Us'など、社内外の苦情処理の仕組みを改善し、そして世界各地の乳幼児栄養部門に勤務する社員を対象に、ネスレの乳幼児向け製品を適正にマーケティングする能力を高めるための研修を実施しました。

2016年には、活動状況の監査が、37カ国で社内監査役、3カ国でビューローベリタス、1カ国でプライスウォーターハウスクーパーズにより実施されました。進捗状況についてはネスレの企業ウェブサイトで公開されています。

302カ所
ネスレ事業所内に現在設置されている授乳エリアの数

2020年までの私たちの目標

- ⊕ 2018年までに、「マタニティー保護方針」の母乳育児の支援に関するすべての規定を履行すること。
- ⊕ 2020年までに、ネスレが事業を行うコミュニティにおける授乳室の設置を支援することにより、母乳育児にやさしい環境を推進すること。

親や保護者、教員による子どもの健康的な行動育成を支援する

人生の初めの1,000日(子どもが胎児の時から2歳の誕生日を迎えるまで)における良い栄養と食事習慣は、生涯にわたり健康とウェルビーイング(心身ともに健康で幸せな状態)の基盤となります。従って、母親が自身と子どもの健康的な食習慣を確立することが重要です。

2016年の私たちの目標

◐ 推進中 – 人生の初めの1,000日(子どもが胎児の時から2歳の誕生日を迎えるまで)の重要性について、親や保護者向けに栄養教育をしています。これには、人生最良のスタートのための妊娠中の母体の栄養や、乳児への最適な母乳育児の推進などを含みます。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、それぞれ具体的な点に絞った3つのプログラムを通じて、子どもとその家族の健康的な行動を育成することを目指しています。3つのプログラムは、広い意味で目標は同じですが、規模、実施範囲やアプローチが異なり、それぞれ特定の対象グループに、異なるチャネルを通じて実施しています。

- ネスレの「スタートヘルシー、ステイヘルシー」は、保護者を対象に、人生の初めの1,000日における栄養の重要性について啓発します。
- 「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」は、栄養教育で教員と子どもたちを啓発し、学校環境で健康的なライフスタイルを促進するためのプログラムです。
- 「ユナイテッド フォー ヘルシアーキッズ」は、保護者やパートナーの関与を通じて、子どものさらに健康的な行動を奨励します。

「ネスレ『スタートヘルシー、ステイヘルシー』初めの1,000日の栄養」プログラムは、栄養科学者が最新の研究成果と公衆の健康データに基づいて制作した、楽しみながら学習できるeラーニング講座です。母親を対象に、どんな食品をどうやって与えればいいか、そしてなぜ初めの1,000日が乳児の将来の健康にとって重要なのか、理解の促進を図ります。2016年末の時点で、このプログラムは40以上の国と地域で実施されており、eラーニングの利用者数は5,500万人に達しました。

「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」は、子どもと青少年が、活発なライフスタイルを送りながら、適切な栄養摂取と健康的な水分補給ができるよう支援します。子どもたちは教員を介して栄養の基礎を学び、良い飲食習慣についての実用的なアドバイスをもらいます。プログラムの枠組みは柔軟で、各学校が地元コミュニティに特化した健康や栄養上のニーズに合わせて変更することができます。ガボンとパレスチナ自治区で新たにプログラムが開設され、現在は84カ国で実施中です。

さらに、「ユナイテッド フォー ヘルシアーキッズ」プログラムも新たに開始しました。これは、ソーシャルメディアを中心にした、科学的アプローチに基づく先進的な総合プログラムです。地域住民や民間パートナーとの関わりを通じて、12歳未満の子どもをもつ保護者に対して、行動の変化を促し、それを可能にするための新しいツールを提供することが目的です。「ユナイテッド フォー ヘルシアーキッズ」プログラムを利用した保護者は過去2年間で1億7,000万人に達し、現在は10カ国で実施中です。

830万人

「ヘルシーキッズ グローバルプログラム」に接した子どもの数

2020年までの私たちの目標

⊕ 2018年までに、既存の「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」を継続しながら、同プログラムの子どもへの影響をグローバルで定めた5つの目標(栄養のある多様な食事、ポーション管理、水を選ぶこと、よく遊び活動的であること、適切な衛生習慣の維持)に基づいて評価すること。

⊕ 2020年までに、ネスレの栄養教育プログラムと行動変化プログラムを通じて、5,000万人の子どもを支援すること。これは、2030年に向けたネスレの包括的で長期的な目標を目指す重要な指標です。

子ども向けのマーケティングは、栄養バランスの良い食事に役立つ製品に限る

ネスレは長年にわたり、子ども向けの責任あるマーケティングを掲げています。ネスレ独自のコミュニケーション原則と、『ネスレ 子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』は、子ども向けのすべてのコミュニケーションが責任あるマーケティングの原則を守ること、そして特定の栄養プロファイルに適合する食品飲料に限定することを義務づけています。

ネスレは国際食品・飲料アライアンス(IFBA)の創設メンバーとして、IFBAの「子ども向け広告とマーケティングコミュニケーションに関するグローバル方針」の順守もコミット(約束)しています。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは組織全体で、子ども向けマーケティングの全基準に対する意識を高める取り組みを継続しており、マーケティング担当者や外部の代理店パートナーにネスレの方針について理解を深めてもらうため、独自のウェブベースのツールを開発しました。このツールはネスレブランドの実例に基づいており、6地域で試験運用を行った後、2016年末に本格導入されました。

また、業界パートナーと協力し、特に広告に関する自主規制や公的規制のない国で、子ども向けマーケティングに関する誓約事項の策定にも取り組んでいます。2016年には新しい誓約が多くの国で策定、強化され、このような業界のコミットメントは51カ国に広がりました。

私たちの目標

◐ 2017年までに、『ネスレ 子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』の実施を支援するため、ネスレの全世界のマーケティングチーム向けに目的を絞った研修を実施すること。

◐ 2017年までに、子ども向けの販売促進活動は、栄養ある食事の要となる製品に限ること。

健康的な水分補給のための第一の選択肢として、水を推奨する

ネスレは、水分補給習慣に関して自社で持つ知識を広く伝え、個人と家族の水分補給の第一の選択肢として、水源を問わず普通の水を推奨することにより、健康な世代づくりを支援します。「健康的な水分補給のロードマップ」は、2016年およびそれ以降のネスレのアプローチの指針です。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレはカリフォルニア大学デービス校と共同で、9から12歳の子どもの作業記憶と注意力に水の摂取が与える効果を調べた研究について論文誌『アペタイト』に発表しました。この研究結果は、適度な水分補給状態になるように水を飲むと認知能力が向上することを示唆しています。

このような研究の成果をもとに、ネスレは公衆の健康に関する機関、学術機関、非政府組織（NGO）、民間部門と協力し、健康的な水分補給に水の摂取を奨励するキャンペーンに取り組んでいます。

例えば、ネスレ ウォーターズ メキシコはメキシコ保健省と連携し、全国家族水分補給プログラムを創設しました。2016年7月にメキシコシティで開催された発足イベントは4万人を超える人々を集め、その後、5つの主要都市を回るメディアツアーを行い、健康的な水分補給をテーマにしたキャンペーンイベント「ハイドレーション ブリゲーズ」を国内の主要大学で実施しました。今後、同様のイニシアチブを他の国で展開する計画を検討中です。

ネスレ ウォーターズ 北アメリカは、ミシェル・オバマ前大統領夫人が名誉会長を務める非営利組織、パートナーシップ・フォー・ヘルシアー・アメリカ（PHA）が推進する「ドリンクアップ」イニシアチブを支援しています。「ドリンクアップ」は、民間部門と協力し、米国民に水の摂取を奨励する取り組みです。

2020年に向けた私たちの目標

- 2017年までに、世界の水分補給習慣に関する研究データを構築、共有し、公衆の健康に関する戦略を支援すること。
- 2020年までに、少なくとも10カ国で、さらに健康的な水分補給のための第一の選択肢として水を奨励すること。

栄養強化を行ったグアテマラの「マギー」製品

世界の人口の30%以上が、必須ビタミン、ミネラルの欠乏、特に「4大微量栄養素」ともよばれる鉄、ヨウ素、ビタミンA、亜鉛の欠乏に苦しんでいます。中米全域の家庭で使われている調味料は、幅広く一般に、また高頻度で消費されており、既存の食習慣に根付いていることから、微量栄養素強化に効果的な食品であることがわかっています。グアテマラで実施したネスレのキャンペーン'Cooking a Better Future Together'では、ネスレの人気ブランド「マギー」と*Malher*を利用して、ネスレの『食品飲料の微量栄養素強化に関する方針』に準じて、1日の鉄分所要量の15%を摂取できる製品を手頃な価格で提供しています。

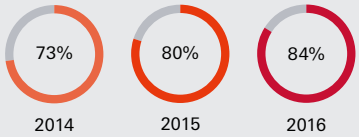
ネスレのマーケティング活動を活用して、健康に良い料理、食習慣、ライフスタイルを奨励する

世界各国に拠点を置くネスレは、さまざまな媒体を通じてブランドコミュニケーションを効果的に活用できます。ネスレは日々販売する製品を通じて、さらに健康的なライフスタイルを応援し、これらの接点を通じて適切な食習慣を奨励することができます。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレの「マギー」ブランドは、良い食習慣はキッチンから始まるという信条を持っています。2016年、ネスレは84%の「マギー」製品を通じて、家庭での料理と野菜を使った健康的な食事の奨励を継続しました。

家庭での料理と野菜を含む食事を奨励している世界の「マギー」製品の割合(%)



「マギー」料理教室プログラムでは、子どもと親に家庭で料理することを奨励し、消費者がおいしくてバランスのとれた食事を作ることができるよう支援します。このプログラムでは、献立のレパートリー、レシピとすぐに試せる料理のコツを伝えるとともに、大人向け、ティーンエイジ向け、子ども向けの料理教室を実施しています。2016年には、プログラムの実施地域を35カ国に拡大しました。

また、ネスレの広域なマーケティング活動を利用し、健康的で活発なライフスタイルも奨励しています。アフリカ、オセアニア、アジアのブランドコミットメントを通じた、「ミロ」スポーツプログラムには、2016年、各国政府やスポーツ団体と連携した草の根スポーツ活動を通じて2,200万人の子どもたちが参加しました。「ミロ」は、オーストラリア、フィリピン、インドネシアで、子どもにいつも活発でいてほしいと願う保護者のために、活動量計と支援アプリも新たに発表しました。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、個人と家族、そしてペットのために健康的な料理と食習慣、健康的なライフスタイルを奨励するネスレの取り組みの対象範囲を倍増させること。

パッケージ、店頭とウェブサイトで栄養情報を表示し、説明する

ネスレは、消費者によるインフォームドチョイス(消費者に正しい情報を伝えた上で賢く選んでもらうこと)を促進するため、材料、栄養面の利点、健康情報、ポーションサイズについて明確な情報をすべてのネスレ製品のパッケージに表示しています。これらの情報は、事実に即し、有意義で、透明性があり、科学的に立証され、誤解を招かないものでなければなりません。私たちは、ネスレ製品のラベル表示が完璧に正確であり、また糖類や飽和脂肪酸など消費者が避けたいと感じる栄養素、材料、物質が含まれていないことを明言できるよう努めています。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、世界で対象となるすべての食品飲料製品のパッケージ前面に、1日のカロリーガイド(GDA)に基づく表示をし、消費者に栄養成分について知らせること。
- 2016年までに、規制で認められれば、子ども向けのすべての製品に子ども用の基準値に基づいたGDA表示を導入し、親が子どもに栄養価の高い製品を選べるよう支援すること。
- 2016年までに、スマートフォン向けQRコードを通してパッケージ上の製品情報と栄養に関するアドバイスをより詳細に提供し、情報をより得やすくすること。

現在までの私たちの進捗状況

1日のカロリーガイド(GDA)を使用したラベルは、食品や飲料の一般的な1サービングあたりの栄養組成を、カロリー、糖類、脂肪、その他の栄養素の1日あたりの目安と比較して、詳しく記載しています。ネスレは過去2年間、GDA表示の導入を加速させており、表示規制で認められている国では、該当するネスレの食品飲料製品の92.3%で、パッケージ前面にGDAに基づく表示をしています。

95.7%
パッケージ上にGDA表示のある子ども向け食品飲料製品の割合

表示規制や慣習は国によって異なるため、パッケージ上のGDAに基づく表示がすべての国で認められているわけではありません。しかし、ネスレは引き続き、可能な限りすべてのパッケージにGDAの比率を記載したいと考えています。現地の消費者にとってできる限り関連があり、見やすく、わかりやすいものになるよう、記載する情報をそれぞれの市場に合わせて調整することを目指しています。

「ネスレ ニュートリショナルコンパス」は、消費者が製品についてさらに深く知ることができる情報パネルです。少なくとも各製品の栄養成分表、詳しい情報の問い合せ先、そして可能な場合はライフスタイルや栄養に関するヒントなど、さまざまな情報が記載されています。2016年末の時点で、ネスレの食品飲料製品の96.4%に「ネスレ ニュートリショナルコンパス」が表示されています。

製品情報を求める消費者の増大する声に応えるため、ネスレは「ネスレ ニュートリショナルコンパス」内に表示するQRコードの使用を拡大しました。QRコードにより、消費者はスマートフォンで簡単にオンライン情報にアクセスし、「ラベル表示以上(Beyond the Label)」の情報から、ブランドや製品の栄養面、環境面、社会的な貢献についてさらに詳しく知ることができます。2016年には、QRコードからアクセスできる追加の製品情報や栄養に関するアドバイスを、50カ国の90以上のブランドで、4,400以上のウェブサイトに掲載しました。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、1日の摂取量目安に対する割合、材料、アレルゲンを含めた製品の詳しい栄養情報を継続的に提供し、インフォームドチョイスをさらに推進するため、該当する全ネスレ製品のパッケージ、ネスレのウェブサイトとオンライン小売サイトに、特別食に関する情報、栄養表示の説明、健康的な食習慣のヒントを追加すること。

ネスレ製品のポーション(1食分)ガイダンスを提供する

不適切なポーションサイズは、世界中でバランスの悪い食習慣の原因になっており、健康改善に悪い影響を与えています。ネスレは、健康的な食事につながる摂取量、頻度、質に関する指針を消費者に示す責任を共有していると考えます。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、ネスレの子ども向けと家族向けの製品の100%でポーションガイダンスプログラムを実施し、健康的な摂取量を奨励するとともに、レシピのウェブサイトと栄養教育プログラムのガイダンスで補足すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレの自主的な取り組みであるポーションガイダンスは、製品の形、パッケージデザイン、わかりやすいイラスト、可能な場合はサービングのための器具やディスペンサーマシンなどで見ることができます。現在、ネスレの子ども向けと家族向け製品の約3分の2(66.7%)に、明確なポーションガイダンスを導入しています。繰り返し購入される製品や嗜好性の高い食品など、子どもの食事全体に大きな影響を与える製品については、80.5%にポーションガイダンスを導入しました。

レシピのウェブサイトをさらにアクセスしやすく、使いやすくし、年齢にふさわしいポーションサイズに関する情報を追加する取り組みも継続しています。この取り組みは、消費者が摂取する食品の栄養価を理解し、特に高カロリーの食品飲料のポーション習慣を考え直す上で役立っています。

2020年までの私たちの目標

- 2020年までに、世界のすべての子ども向けと家族向け製品のパッケージにポーションガイダンスを導入する取り組みを継続し、該当する製品に摂取頻度の目安を追加すること。
- 2020年までに、ポーションガイダンスをネスレの消費者向けレシピと、該当するティーン向けと大人向け製品にも拡大すること。
- 2020年までに、ポーションガイダンスをパッケージ上の表示よりもさらに直感的にわかりやすいものにするため、製品の形、パッケージデザイン、サービングのための器具やディスペンサーを通じて、ポーションガイダンスの比率を段階的に増やすこと。

フランスにおけるポーションガイダンスの実践

フランスでは、ネスレのポーションガイダンスプログラムは、製品パッケージから、楽しく見られるオンライン情報(www.croquonslavie.fr/idee-repas)まで、いくつかの補完的な方法で導入されています。医療専門家向けに、患者への助言に役立つ追加情報も提供しています。例えば、学術誌の掲載論文や、パンフレット、各種ツールなどです。2016年末までに、ネスレ フランスの子ども向けと家族向け製品の85%にポーションガイダンスが導入されました。

健康的な食環境を推進するための協力活動を行う

ネスレは、栄養・健康・ウェルネスへの包括的なアプローチを店頭にまで広げ、各地域の小売業者や食品専門家とのパートナーシップを拡大することで、個人と家族のさらに健康的な食習慣やライフスタイルを啓発する環境づくりを目指します。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、健康的な生活に関する小売戦略を活用し、現在のインストア（店頭）の知識や活動規模を広めたいと考えています。インストアプログラムは、独自の戦略や環境に適合する戦略的小売パートナーとの長期的な協力活動を通じて定義され、個人と家族がさらに健康的な選択肢を選びやすくなるよう継続的に支援します。こうしたプログラムには、生涯にわたるさらに健康的な食事やライフスタイル、店頭またオンラインショップでの健康にさらに配慮した買い物、健康に良い製品のレジ近くへの配置、健康に良いランチボックス、皮膚の保護、十分な睡眠習慣、そして親や保護者向けの責任あるマーケティングコミュニケーションなどを推進する取り組みが考えられます。

ネスレは、小売店舗を、個人と家族がさらに健康的な食習慣と生活に向かって徐々に進んでいくよう促し、予防の文化を啓発する場所とすることに加え、さらに多くのパートナーの参加を促すために、規模の拡大が可能な手法の開発にも取り組んでいきます。

2020年までの私たちの目標

⊕ 2020年までに、小売業者や食品専門家と協力し、さらに健康的な食事とライフスタイルを促進する環境づくりに取り組むこと。

初めの1,000日から健康的な加齢までの栄養に関する知識を構築し、共有する

ネスレは、健康に影響を与える唯一最大の要素は食品だと考え、乳児、子ども、高齢者の食事摂取量、ライフスタイル、健康状態について理解をさらに深めようとしています。ネスレの大規模な調査プロジェクトの成果は、ネスレの製品開発、消費者コミュニケーション、教育プログラムの策定に利用され、学界や医療界との対話に役立てられています。

2016年の私たちの目標

- 推進中 － 世界的な低栄養と過剰栄養の問題に取り組む医療専門家に、栄養教育のサービスとプログラムを提供すること。
- 2016年までに、子どもの栄養についての理解を深め、ネスレの製品とサービスの開発に役立てるため、米国、メキシコ、中国、ロシアを含む世界10カ国以上で大規模調査プロジェクトを実施すること。
- 2016年までに、ネスレ インスティテュート オブ ヘルスサイエンス（NIHS）とネスレ臨床開発部門の分子栄養学の可能性と臨床戦略をさらに発展、融合させ、栄養学的ソリューションを用いた疾病管理のため世界的に健康をより良く定義すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、以下の2つの大規模な調査を通じて9つの市場で主要な調査を開始しました。調査結果は、医療提供者や政策当局も利用可能です。

- 「乳幼児への栄養供給の研究（FITS）」は、新生児から4歳までの乳幼児の摂食パターンと栄養素摂取についての理解を深めます。
- 「子どもの栄養と健康に関する研究（KNHS）」は、食事や活動に関する多くの習慣が形成される時期にあたる4歳から12歳までの子どもを対象に、食物と栄養素の摂取と生活習慣や行動パターンとの関連を調査します。

2016年には、米国、メキシコ、中国で得られた結果の分析を継続するともに、ロシア、オーストラリア、フィリピンで新しい調査を主導しました。初期の分析結果では、食事を抜く子どもが増えていること、食物繊維と野菜の摂取が推奨量を下回ること、カルシウムとビタミンDの不足が多く見られることが示唆されています。

また、ブラジルのサンパウロでの試験的調査の分析を完了したほか、ベイルート・アメリカン大学と共同で中東での予備的文献レビューを実施しました。現在は、3件の新規データ収集調査の準備中です。

ネスレの研究ネットワークに属するネスレ インスティテュート オブ ヘルスサイエンス（NIHS）は、代謝、胃腸、脳の健康と健康的な加齢を専門に研究しています。食事、ライフスタイル、遺伝的要因、そして特定集団（高齢者、母親、乳児、幼児など）や特定の国における代謝機能との相互作用に関するNIHSの研究は、ネスレの製品イノベーション活動と関連サービスに役立てられます。

ネスレ ニュートリション インスティテュート（NNI）は、栄養情報を出版する世界最大の民間組織であり、医療専門家や科学者、栄養コミュニティ向けに、科学的根拠のあるデータや研究結果を提供しています。194カ国の約30万2,000人の登録会員は、グローバルウェブサイトと13の国別サイトにアクセスできます。そのおかげでネスレは、2017年の目標を1年前倒しで達成することができました。

2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2020年までに、エピジェン・コンソーシアムとの共同研究を通じ、母親と子どもの栄養やライフスタイルと健康バイオマーカーとの関連性に関する知識を構築すること。

⊕ 2020年までに、乳児と子どもの食事摂取量、摂食行動、ライフスタイルに関する知識をさらに構築すること。

⊕ 2020年までに、加齢期の食事摂取量、嗜好、ライフスタイル習慣についての理解をさらに深めること。

健康を促進する製品、パーソナルニュートリション(個別化した栄養)、デジタルソリューションにつながる生物医科学を推進する

ネスレ ヘルスサイエンス(NHSc)は、栄養の治療的役割の向上に取り組んでいます。ネスレの栄養療法は、確かな科学的研究と、消費者や医療提供者についての深い理解を基盤とします。こうした研究成果によって、より早期の介入が可能になり、臨床証拠が蓄積され、未対応のニーズに取り組むための科学的根拠に基づくイノベーションパイプラインが構築されます。

現在までの私たちの進捗状況

17億スイスフラン

研究開発に
17億スイスフランを投資

ネスレは、加齢に関係する特定の症状や特定の栄養ニーズを持つ人々のニーズに応えるため、さまざまな専門栄養製品を提供しています。消費者を生涯にわたり支援するために、ネスレは革新的な治療法に特化した新たな事業分野を創設しました。NHScは、栄養を通じて健康改善するための科学的手法開発を目指し、ネスレ スキンヘルスは、皮膚、髪、爪に関する科学的根拠に基づくソリューションを提供します。

- 健康的な加齢を支援するための科学的根拠に基づくソリューションには、*Boost*、*Meritene*、*Nutren Senior*、*Sustagen*などの主要なブランドがあります。また、世界の50歳以上の消費者の意識、健康状態、習慣を理解するため、10カ国の14,000人を対象に調査を実施しました。
- NHScは、食物が関係する消化障害と過敏性腸症候群(IBS)への取り組みとして、小腸で吸収されにくい短鎖炭水化物を除去した食事に関する情報を、消費者と医療専門家に提供するウェブサイト www.LowFODMAPCentral.com を開設しました。ネスレの栄養ドリンク*ProNourish*は、こういった食事を容易にする製品です。
- ネスレは米国企業アクセラに資本提供を行い、軽度から中度のアルツハイマー病患者のための処方医療食品*Axona*の臨床試験を支援しています。また、子どもの発作抑制効果が期待される栄養ドリンク*Vitaflo*の臨床試験も開始しました。
- NHScは、牛乳たんぱく質アレルギー(CMPA)の症状の発見と早期介入に役立つ一次医療従事者向けの支援ツールCoMiSSの開発に共同出資しました。さらに、フランス企業DBVテクノロジーズと、乳児の牛乳たんぱく質アレルギー診断用パッチテストツールの共同開発も始めています。
- 重篤な病状の患者や、栄養不良や嚥下困難に悩む高齢者を支援するため、NHScはGEヘルスケアと共同で、集中治療時の栄養状態を改善する統合管理システムの開発に取り組んでいます。また、在宅で普通の生活を続けながら経管栄養に移行する方のため2つの情報ウェブサイトも開設しました。

携帯電話、ウェアラブル端末やスマート家電など、私たちが日常生活で使うセンサーやデバイスで集まるデータは、栄養状態や活動を把握するために利用でき、さらに健康的なライフスタイルに導いてくれます。ネスレの長期的な目標は、このようにますますつながるテクノロジーを栄養科学の画期的な成果と組み合わせて、健康管理をさらにカスタマイズされたものにし、人々が自身の栄養状態、ライフスタイル、環境や遺伝的特徴を理解できるようにすることです。

ネスレ インスティテュート オブ ヘルスサイエンス(NIHS)はサムスン電子戦略革新センター(SSIC)とともに、栄養科学とデジタルセンサー技術を融合させて活用するための共同研究を始めました。ネスレは、個人と家族に、栄養、ライフスタイル、体調維持に関して、カスタマイズしたアドバイスを単一のデジタルヘルスプラットフォームから提供することを目指しています。2017年前半に最初の試験運用を開始する予定です。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、各種の研究と診断プロファイリングを活用した新しい介入型栄養ソリューションを開発すること。これらのプログラムは、代謝、胃腸と脳の健康、健康的な加齢、皮膚の健康、ペットなどの重要分野に対象を絞ります。
- ⊕ 2020年までに、栄養素摂取量の計算と栄養バランスについてのアドバイスを行うデジタル栄養プロファイリングを、個人と家族がさらに幸せで健康な生活を送れるよう支援する総合的なツールに発展させること。

投資家のメリット

栄養・健康・ウェルネスの側面を持つ製品は、より良い業績を収めます。このことは、ネスレの製品試験プログラム「60/40+」の味覚テストと「ネスレ栄養基盤」の基準による評価が平均を上回る製品と、平均に満たない製品とを比較した最近の分析で明らかになっています。規制を守らないと大きな損失になりかねませんが、ネスレの健康・ウェルネスの取り組みは、規制の一歩先を行くことに役立っています。より健康な食品飲料製品の市場は拡大しています。こういった製品を販売することで、収益が増加する可能性は確実にあります。

農村開発

ネスレは、世界中の何百万もの農業従事者から原材料を調達しています。こうした農業従事者は、確実で長期的な供給、そしてネスレの成功にとって極めて重要です。これらの材料の生産地、生産方法、そして農業従事者と彼らのコミュニティが直面する問題について理解し、管理することで、活気あるコミュニティづくりに協力し、ネスレとともに暮らし、ともに働く人々のより良い生活を支援することができます。

中国・雲南省普洱市にある「ネスカフェ」コーヒーセンターでは、現地のコーヒー農家に研修と品質保証サービスを提供しています。

農業従事者のニーズを理解するために農村開発基礎評価を実施する

ネスレは、農村開発へ一貫した取り組みを続け、農村の生活向上に貢献するため、応答誘導式サステナビリティ評価（RISE）や農村開発の枠組み（RDF）などの診断ツールを用いて、現実問題に現場で対応しています。これらについては、介入が必要な分野をさらに特定して、ファーマーコネクトプログラムの既存の農村開発活動に取り入れています。

2016年の私たちの目標

● 2016年までに、優先地域において食料の入手可能性と食事の多様性を改善するための戦略（活動と目標）を導入すること。3カ所で試験的に実施すること。

現在までの私たちの進捗状況

RDFは導入以来、主にネスレのコーヒーサプライチェーンに適用されてきましたが、2016年には他のカテゴリーへの導入も開始しました。RDFで得られた知見を参考にしてネスレの計画やプログラムの焦点を定め、調達地域のコミュニティにおける栄養不良や貧困など、問題の根本原因に取り組んでいます。

RISEは、ネスレの農村開発アプローチへ体系的に統合されつつあります。このツールは、作物生産や畜産を含む混合農業方式の全体像の把握に特に適しています。2016年には、主にメキシコ、パキスタン、ウクライナで各種の生産体系についてRISE調査が実施されました。農業生産の潜在性に関する知見が得られた調査もあった一方で、継続的な改善に向けて必要なギャップ特定の役割を果たした調査もありました。

私たちの目標

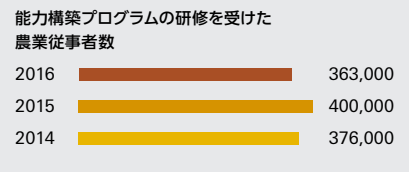
◐ 2018年までに、明白な社会的ニーズがある、ネスレの事業にとって重要な調達地域で合計18件の基礎評価を実施し、ネスレの事業活動と、農業従事者と現地コミュニティの優先課題の調整に役立てること。

● 達成済
◐ 進行中
◔ 進行中（期限後）
⊕ 新たな目標

ネスレのサプライヤーである農業従事者の農場の経済状態を改善する

ネスレは、農業従事者と協力して安全で良質な原材料を生産すること、そして若い才能ある農業従事者に農業を続けてもらうことを目指しています。この目標への重要な原動力の一つは、農業経済性です。農業で十分な収入が得られなければ、若い農業従事者を定着させることはできません。従って、農業従事者と協力しながら彼らの仕事と限界収益を理解した上で、品質を重視し、生産性を高めることによって成長を支援する必要があります。この取り組みを通じて、次世代の農業従事者の意欲を高め、ネスレのサプライチェーンを守るために不可欠な農業への定着を促していきます。

現在までの私たちの進捗状況



2020年の目標の達成に向けて、引き続き順調に進んでいます。2016年には、農業従事者の栄養改善や貧困緩和の重要性など、関連する問題について継続的に学ぶことができました。「ネスカフェプラン」や「ネスレ カカオプラン」などのプログラムを通じて、農業に従事する女性を支援する新たなイニシアチブを含め、さまざまなプロジェクトや活動を開始または実施しました。コートジボワールでは、女性の役割向上を目指す女性フォーラムを立ち上げ、エクアドルとベネズエラでは、女性を対象に、収入源の多様化と拡大のための新しいスキルを学ぶ研修を実施しました。

2020年に向けた私たちの目標

◐ 2020年までに、RDF基準の結果に基づき、7つの優先調達地域の農業経済性を改善すること（農業経済性には、生産性、品質、コストと価格プレミアムというネスレが重視する4つの要素を含む）。

ネスレのサプライヤーである農業従事者の食料の入手可能性と食事の多様性を改善する

特にアフリカの一部の地域では、農業従事者や彼らの家族のための食料や食事の多様性が不十分な場合があります。これは健康障害やその他の問題につながるおそれがあります。ネスレは、この問題に関して自社でこれまでに学んだことを活かすべきであり、現地の非政府組織（NGO）と協力して、問題の克服に必要な枠組みの構築に取り組んでいます。

現在までの私たちの進捗状況

55,000人
2016年にソリダリダードの栄養研修を受けた農業従事者の数

2016年中に、メキシコとフィリピンの食事の多様性に関する詳しい情報を集め、ケニアではさらに詳細な委託調査を実施しました。コートジボワールとガーナでも同様の情報を収集する調査に参加しており、インドネシアと中国についてはすでに情報を得ています。これらの調査で得られた知見に基づき、農業従事者と彼らの家族の食料の入手可能性と多様性の向上を支援するプログラムを設計中です。また、農業従事者に対する栄養研修、間作の促進、家庭菜園と家畜の支援も継続しています。2016年には、インドネシアで家庭菜園と家庭用の野菜栽培というコンセプトを導入しました。インドネシア、フィリピン、ケニアの農村地域で「ネスレヘルシーキッズ プログラム」の導入も進めています。ケニアとエチオピアでは、ソリダリダード（オランダのNGO）と協力し、生産と収入を増やすことで農業従事者の食料安全保障を改善する取り組みを継続しています。ソリダリダードは、栄養とコーヒー生産に関して農業従事者を研修し、収入拡大のために間作を推進し、ネスレは、栄養改善のため家庭菜園の研修と支援に当たっています。

2020年に向けた私たちの目標

◐ 2020年までに、RDF基準の結果に基づき、5つの優先調達地域で食料の入手可能性と食事の多様性を改善すること。

コートジボワールの女性に発言力を

カカオサプライチェーン内のコミュニティでは、女性の地域社会への参画が制限されることがあり、女性たちの苦情は適切に対処されていません。ネスレと公正労働協会（FLA）は、コートジボワールの2つのカカオ栽培コミュニティ、ヤオクアククロとザラヌーに女性フォーラムを創設しました。このプラットフォームは、女性に対して、コミュニティでの発言力と苦情に対応してもらう機会を与えています。2016年には、新しいフォーラムを支援するため、効果的な対話の方法や苦情処理の仕組みについて研修し、既存の2つの女性団体の内部管理の改善を支援しました。研修の教材とロールプレイングなどの手法は、参加者に合わせて設計されました。コミュニティで女性の発言力をさらに強化するため、プロジェクトは2017年も継続されます。

サプライチェーンにおける責任ある調達を実施し、動物福祉を推進する

食品成分、産地や生産方法を知りたいと考える消費者やステークホルダーがますます増えています。だからこそ、責任ある調達は、ネスレの事業の持続可能な未来を確保するための重要な要素です。原料のトレーサビリティ（追跡可能性）と責任ある調達を目指すネスレの取り組みは、12の主要カテゴリーに重点を置いています。これらのカテゴリーは、大量に調達する、あるいはネスレの事業にとって特に重要な原材料です。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、一次サプライヤーに関して、総取り扱い量の50%が監査を受け、基準を順守したサプライヤーから調達されること。
- 2016年までに、サプライチェーンの上流に関して、12の主要カテゴリーの取り扱い量の50%が追跡可能で、40%が責任ある調達をされたものであること。

現在までの私たちの進捗状況

総取り扱い量の61%が『ネスレ サプライヤー規約』を順守したサプライヤー（SMETAおよびエコバディス監査による）から調達され、主要カテゴリー原材料の51%が追跡可能、44%が責任ある調達をされ、目標を上回りました。ただし、各サプライチェーンの個々の状況により、進捗状況はカテゴリーによって異なります。2016年には、仕入量と、消費者と製品ポートフォリオ全体にとっての重要性から、穀物を主要カテゴリーに加えました。穀物サプライチェーン内での評価を始めており、初回の結果は2017年を予定しています。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2017年までに、一次サプライヤーに関して、総取り扱い量の60%が監査を受け、基準を順守したサプライヤーから調達されること。
- ⊕ 2017年までに、サプライチェーンの上流に関して、主要カテゴリーの取り扱い量の60%が追跡可能で、50%が責任ある調達をされたものであること。
- ⊕ 2020年までに、一次サプライヤーに関して、総取り扱い量の80%が監査を受け、基準を順守したサプライヤーから調達されること。
- ⊕ 2020年までに、サプライチェーンの上流に関して、主要カテゴリーの取り扱い量の80%が追跡可能で、70%が責任ある調達をされたものであること。

カカオ農家とともに「ネスレ カカオプラン」を実施する

「ネスレ カカオプラン」は、農業従事者と彼らのコミュニティの生活向上を目指しており、より良い農業、より良い生活、より良いカカオを活動の3つの柱としています。この活動を通じて、農作業改善のための農業従事者の研修、男女平等の促進、児童労働問題への対応、農業従事者グループとの長期的な関係の構築に取り組んでいます。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて13万トンのカカオを調達すること。ネスレの児童労働モニタリングと改善要請システム(CLMRS)の導入を完了させ、コートジボワールにおけるすべての「ネスレ カカオプラン」農業協同組合での児童労働を特定すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレの総取り扱い量の34%にあたる140,933トンのカカオを「ネスレ カカオプラン」を通じて調達し、目標を上回りました。また、220万本の新しい苗木を配布し、57,000人の農業従事者に研修を実施しました。CLMRSの導入も継続し、9月時点で「カカオプラン」に登録されていた69の農業協同組合のすべてが年末までにCLMRSに加入しました。ネスレがカカオを調達する農業従事者の数が増えているため、引き続きこれらの農業従事者がこのシステムでカバーされるようにします。ガーナでCLMRSを開始し、2017年にはこれを拡大します。西アフリカは児童労働のリスクが最も高い地域であるため、現在はこの地域でのシステム拡大に注力しています。ジェイコブス財団との協力で、農業従事者とコミュニティに提供する支援に識字教育を追加したほか、女性の地位向上のための取り組みを続けており、コートジボワールでは1,073人の女性に収入を生み出す活動を拡大するための支援をしました。

2020年に向けた私たちの目標

- 2017年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて15万トンのカカオを調達すること。コートジボワールのすべての農業協同組合が、「ネスレ カカオプラン」への参加1年以内に児童労働モニタリングと改善要請システム(CLMRS)を導入すること。
- 2018年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて17万5,000トンのカカオを調達すること。
- 2020年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて23万トンのカカオを調達すること。

ネスレのコーヒー生豆サプライチェーンを継続的に改善する

ネスレが高品質のコーヒー供給を確実にする必要がある中で、コーヒーの木の老化や病気、収穫量低下、価格変動や気候変動が小規模農家の生計とコーヒー栽培業の持続可能性を脅かしています。ネスレはその対応として、「ネスカフェ プラン」と「ネスプレッソAAAサステナブルクオリティプログラム」を通じて、新たな販売経路、病気に強い苗木、技術支援を提供しています。

現在までの私たちの進捗状況

2016年、「ネスカフェ」はファーマーコネクトを通じて20万4,163トンのコーヒー生豆を購入し、うち18万148トンが4C基準に準拠していたため、調達に関する目標を達成しました。「ネスプレッソ」はコーヒーの74%を「AAAプログラム」を通じて調達しました。「ネスプレッソ」は、「AAAプログラム」を通じてごく特定の品質のコーヒーを調達しており、毎年同じ農業従事者から購入しています。しかし、ブラジルとコロンビアの長期にわたる干ばつのため(コロンビアでは交通機関のストライキも含む)、「AAA」コーヒーを十分に入手できなくなっています。そのため、2016年には「AAAプログラム」外のコーヒーを購入せざるを得ませんでしたが、まったく同じ規格の豆を選定しました。

また、2016年には、さらに強く収穫率の高い苗木を2,830万本配布し、累積合計本数が1億2,900万本に達しました。

2020年に向けた私たちの目標

- 2020年までに、持続可能な農業ネットワークの原則に準拠したコーヒー9万トンを調達すること*。
- 2020年までに、「ネスカフェ」のコーヒーサプライチェーンの品質、数量、持続可能性を改善させるため、2億2,000万本のコーヒー苗木を配布すること。
- 2020年までに、「ネスプレッソ」の定番品で使用するコーヒーの100%を、コーヒー調達に関する「AAAサステナブルクオリティプログラム」を通じて調達し、農業従事者の社会福祉を改善すること。

* 2017年中に、「ネスカフェ」はこの目標を見直し、コーヒー農家、彼らのコミュニティと生活環境にプラスの影響を与えることに重点を置く方向に再調整します。この見直しは、コーヒー栽培地域ごとに明確に特定されている持続可能性への影響と関連して、ネスレの取り組みの中心を支えるものです。

投資家のメリット

ネスレは、ミルク生産地区を確立する取り組みによって、世界トップレベルの乳業会社に成長することができました。「ネスプレッソAAAプログラム」により、明確に商業上の差別化が図られています。また、「ネスプレッソ」のサプライヤー契約も競合他社との差別化につながっており、この契約形態により、ネスレは米国でキューバ産コーヒーを初めて販売した企業になりました。「ネスカフェ プラン」と「ネスレ カカオプラン」に関するネスレの活動は、コーヒー、カカオ生産の商業性の強化につながりました。食品の産地を知りたいと考える消費者はますます増えています。ネスレのトレーサビリティの取り組みは、こうした消費者のニーズに応えます。

水

水は普遍的な人権です。ネスレのバリューチェーンのあらゆる部分において水は欠かせないものであり、ネスレの社員、サプライヤー、顧客、消費者はすべて、安全で清潔な水と公衆衛生を利用できることが必要です。そして、ネスレとともに働く農業従事者や、ネスレが事業を行うコミュニティも同じです。ネスレはこの貴重な資源の責任ある管理に努め、取水量、水の使用と処理の継続的な改善を目指します。

ブラジルのモンテス クラロスの「ネスカフェ ドルチェ グスト」工場では、取水量ゼロ技術を導入しています。

事業全体における水の利用効率とサステナビリティの向上に取り組む

栄養・健康・ウェルネス企業であるネスレの事業と製品に、水は重要です。原材料の洗浄や加工、冷却設備や洗浄設備に水を使用します。また、健康的な水分補給のためのソリューションとして、ボトル入りの水も消費者に提供しています。ネスレは近年大きく進歩していますが、取水量、水の使用と処理のサステナビリティについては、引き続き改善を目指します。

2016年の私たちの目標

- ● 2016年までに、ウォーター・スチュワードシップ（水の管理）の取り組みを定義し、優先順位の高い5地域で実施すること。
- ● 2016年までに、優先順位の高い製造施設の100%で節水プロジェクトを実施すること。
- ● 2016年までに、選定された製造施設とすべての新規工場建設地域において、ウォーター・リソース・レビュー（WRR）を新たに45件実施すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、取水量の削減、水の再利用、雨水などの代替水源利用のためのプログラムを実施しています。これらの取り組みにより、製品1トンあたりの取水量を2010年と比較して25%削減することができました。2016年には、節水プログラムに3,160万スイスフランの予算が割り当てられました。現在、ネスレの工場で516件の節水プロジェクトを実施しており、年間370万m^3の水を節約しています。この量は、オリンピックサイズのプール1,500個分に相当します。

ネスレのウォーター・リソース・レビュー（WRR）は、主要なリスクと機会を特定し、さらに持続可能な水利用のために行動計画を策定するものです。2016年には、キューバ、米国、ベトナム、スイスなど複数の国で計22件の新規のWRRを実施しました。10年前にWRRを開始して以来、現在までに世界各地で目標を上回る158工場でレビューを実施し、ネスレ ウォーターズの100%の施設でWRRを完了しました。

ネスレでは、水ストレスが深刻となっている、あるいはネスレの年間取水量のかなりの部分を占めている地域にある、優先度の高い製造施設のリストを毎年更新しています。2016年には24工場が優先度の高い施設に指定され、このうち21工場で節水プロジェクトが実施されました。

2014年、ネスレはメキシコのハリスコにある工場で、取水量ゼロ技術を世界で初めて実用化した企業になりました。2015年にはブラジルで同じ取り組みを実施し、まずパルメイラ ダス ミソンイスの工場にこの技術を導入、次にモンテス クラロスの「ネスカフェ ドルチェ グスト」工場の設計に導入しました。今後2018年までに、さらにブラジルの4工場に取水量ゼロ技術を導入する計画です。

–25%
2010年と比較した製品1トンあたりの直接取水量

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、水と公衆衛生デューデリジェンスに対する人権についての詳細なガイドラインを、ネスレのすべての市場と主要な農業サプライチェーンで実施すること。
- ◐ 2020年までに、全製品カテゴリーで製品1トンあたりの直接取水量を2010年と比較して全体で35%削減すること。
- ⊕ 2020年までに、選定された製造施設とすべての新規工場建設地域において、ウォーター・リソース・レビュー（WRR）を新たに40件実施すること。
- ⊕ 2020年までに、優先順位の高い製造施設に特に重点を置き、選定された地域で新たに10件の水の管理の取り組みを実施すること。

効果的な水の利用方針と管理を推進する

水は共有資源です。資源保護には、すべてのステークホルダーと協力して取り組むのが最善の方法です。そのため、ネスレは注目度の高いアドボカシー（権利擁護）イニシアチブに関与しており、グローバルな水問題にプラスの影響を与えられるのです。

2016年の私たちの目標

- ● 2016年までに、2030ウォーターリソースグループ官民パートナーシップ構築に引き続き取り組み、年間2カ国を追加、グッドプラクティスについてのグローバルカタログを制作し、公表すること。
- ● 2016年までに、CEOウォーターマンデートの『水と公衆衛生に対する人権の尊重に関する企業のガイダンス』の発行を支援し、特定市場で水のデューデリジェンスについて本ガイダンスを試験的に実施すること。
- ◔ 2016年までに、持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）を支援し、WASH宣言への加盟企業50社を達成すること。
- ● 2016年までに、アライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ（AWS）による国際ウォーター・スチュワードシップ基準の導入プロセスを開始、5カ所以上の拠点で実施すること。
- ● 2016年までに持続可能な農業イニシアチブプラットフォーム（SAIプラットフォーム）と「サステナブル・フードラボ（SFL）」と協力し、水のリスクアセスメントと軽減に関する共同イニシアチブを、原材料農産物調達地域の1カ所以上で実施すること。

現在までの私たちの進捗状況

7点
オックスファムによる「ビハインド・ザ・ブランド」の2016年スコアカードで水部門の最高点を獲得

ネスレは現在、2030年までに水ストレスの高い地域の水需給問題に対処することを目指す官民、市民社会の協力体制である、2030ウォーターリソースグループの議長を務めています。

ネスレは、全社員のため安全な水と公衆衛生と衛生状態（WASH）へのアクセスを確保することを目指す、持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）の宣言を支持しています。WASH宣言

● 達成済　◔ 進行中（期限後）
◐ 進行中　⊕ 新たな目標

を確実に順守するため、ネスレの施設を継続的に自主評価し、行動計画を通じてギャップを特定し、是正しています。現在までに、43社の加盟企業がWASH宣言を採択し、250万人の社員に水と公衆衛生へのアクセスを確保しています。ネスレは、2016年までに加盟企業50社到達というWBCSDの目標も支援しています。

2016年、ネスレは19の企業および環境団体とともに、カリフォルニア・ウォーター・アクション・コラボレーティブ（CWAC）の創設メンバーになりました。CWACは、カリフォルニア州の住民、企業、農業、自然のための水安全保障の改善を目的としたプロジェクトに、ステークホルダーが協力して取り組むプラットフォームです。ネスレは、大規模な環境再生による水供給の改善方法を調査する2つのCWACプロジェクトと、必要な評価、運営、管理を民間部門が支援できる分野を特定するための共同活動に参加しています。

2020年に向けた私たちの目標

- 2017年までに、世界資源研究所による'持続可能な水コスト'を判定するオープンソースの評価方法の開発を支援すること。
- 2020年までに、2030ウォーターリソースグループ官民パートナーシップの構築に引き続き取り組み、年間1カ国を追加すること。
- 2020年までに、3カ所以上のネスレ市場で、CEOウォーターマンデートの地域ネットワークの構築を積極的に支援すること。
- 2020年までに、新たに5カ所の拠点でアライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ（AWS）の基準を実施し、この基準を引き続き支持すること。
- 2020年までに、5カ所以上の農産物調達地域で、持続可能な農業イニシアチブプラットフォーム（SAIプラットフォーム）が新たに作成した農場集水池レベルアセスメントツールを適用すること。

カリフォルニア州における持続可能な水の未来の推進

ネスレは、水が持続可能な形で管理され、ネスレのバリューチェーン全体で保護されるよう、水の責任ある管理者になることを目指しています。カリフォルニア州の干ばつと、水資源の長期的な持続可能性は、私たちにとって重要な問題です。ネスレはカリフォルニア・ウォーター・アクション・コラボレーティブ（CWAC）のメンバーとして、カリフォルニア州の住民、企業、農業、自然のための水安全保障の改善を目指す共同行動プロジェクトを推進しています。ネスレ ウォーターズ ノースアメリカは、水系の再生、部門間の信頼向上のための社会資本の構築、カリフォルニア州の水行動計画に沿った企業の水管理の推進というCWACの3つの各重点分野でプロジェクトを支援しています。

適切に排水を処理する

ネスレは、再利用または環境に放出する前に、使用する水の処理に最も効率的な技術と手法を適用しています。ネスレの事業活動から出る排水は責任をもって処理し、水を環境へ戻すにあたって厳格な水質要求事項を守っています。2016年には、水準がすでに高い『ネスレ環境要求事項(NER)』を、新たな排水基準を含めてさらに強化しました。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、全工場で水質と排水に関して新たな『ネスレ環境要求事項』を履行すること。

現在までの私たちの進捗状況

2016年末までに、製品1トンあたりの排水量を1.4m³に削減し、排水の平均水質は1リットルあたりの化学的酸素要求量(COD)が72mgとなり、2015年に比べて改善しました。過去10年間に、製品1トンあたりの排水量を55%削減しました。

ネスレの全工場は、施設内に自前の排水処理施設を備えているか、公共施設に接続しています。必要に応じて各工場にNERを順守させるための投資を行っており、2016年には工場の効率性、保全対策、処理施設の改善、および処理の要求事項の強化に2,250万スイスフランを支出し、2010年以降の投資額は1億700万スイスフランに達しました。

ネスレは、排水の発生を最小限に抑え、副産物から価値を回収することを目指しており、汚泥の96%を回収するか再利用しています。また、排水に関する研修、ワークショップを改善したほか、ステークホルダーと協力しながら環境保護対策を検討しています。

1億700万スイスフラン
2010年以降に水処理に投資した金額

私たちの目標

- 2017年までに、環境保護を推進するため、水質と排水に関して、強化された新しい『ネスレ環境要求事項』の履行状況を全工場でモニターすること。

ネスレのサプライチェーン全体で清潔な水へのアクセスを改善

2002年以来、ネスレは国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)と連携し、アフリカのネスレのサプライチェーンの農村コミュニティにおける安全な水と公衆衛生と衛生状態(WASH)へのアクセスの改善に取り組んでいます。コートジボワールのカカオ栽培地域では、水質とインフラのモニターと改善、公衆衛生施設の提供や修復、村落や学校での衛生意識プログラムを通じた意識向上など、健康と衛生に対する意識向上のための活動を始めました。2016年には、コートジボワールでのプロジェクト継続のための計画を策定するとともに、IFRCによるガーナでのWASH活動の展開を支援しました。

サプライヤー、特に農業従事者と協力する

ネスレにとって、水使用量を削減するための最大の機会は、農業サプライチェーンの影響に対処することにあります。水使用と節水に関する真の改善は、農場レベルでより良い農業技術を導入することで実現できます。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、水利用、水質、土壌水分に関する農業従事者向けの研修を最優先しています。ネスレの研究開発チームは、耐乾性のカカオやコーヒーの木の選定と普及を支援しています。ネスレ持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)プログラムを通じて、農業従事者向けに、干ばつや洪水への耐性、廃水と有機廃棄物の処理、農場集約化の手法など、主な水管理課題について地域講習会を開催しています。また、水ストレスの高い地域でのコーヒー、砂糖、乳製品、米、穀物に関する水管理行動計画を実施中です。

2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2020年までに、優先地域におけるコーヒー、砂糖、乳製品と穀物のサプライチェーン上流で、改善した水管理のために策定したすべての行動計画を実施すること。

水の保全意識を高め、バリューチェーン全体での水と公衆衛生へのアクセスを改善する

ネスレは専門家と協力し、ネスレのバリューチェーン全体で水と公衆衛生へのアクセスの改善に取り組んでいます。ネスレ社員、コミュニティ、サプライヤー、消費者が、水の保全方法についてより十分な情報に基づいて判断できるようにするための教育イニシアチブを支援しています。

2016年の私たちの目標

● 2016年までに、ネスレの製造施設近隣と主要な農業サプライチェーンで、地域コミュニティにおける35万人が水と衛生プロジェクトの恩恵を享受できること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは2002年からアフリカで国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)と連携し、農村コミュニティでの清潔な水と衛生設備へのアクセスを改善する取り組みを強化しています。

ネスレは、2030年までに世界中の3,000万人に安全な水と公衆衛生を提供することを目指すIFRCの世界の水と衛生イニチアチブ(GWSI)を支援しています。2016年には、コートジボワールで第4期の活動を終了し、IFRCによるガーナでのWASH活動の展開を支援しました。ガーナ持続可能な水・衛生設備・衛生習慣プロジェクト(Gha-WASH)は、2017年までにイースタン州とアシャンティ州の農村部の住民にWASHへのアクセスを提供することを目指しています。Gha-WASHにより、学校やコミュニティで76,300人が安全な水、公衆衛生と衛生状態を利用できるようになり、また水の安全性についての講習が実施される見込みです。また、ネスレはパキスタンで新たな水施設を開設しました。

2020年に向けた私たちの目標

◐ 2017年までに、ネスレ拠点の職場における安全な水、公衆衛生と衛生状態に関して、WBCSDのWASH宣言セルフアセスメントを世界規模で実施した結果に基づくすべての是正措置計画を実施すること。

⊕ 2020年までに、ネスレの製造施設近隣と主要な農業サプライチェーンで、地域コミュニティの60万人が水と衛生プロジェクトの恩恵を享受できること。

投資家のメリット

ネスレは水使用の効率を高めることにより、コストを削減しています。取水量ゼロ工場に投資することで、将来、費用のかかる施設移転を回避できます。水資源の保護は、ネスレ ウォーターズの事業の未来を守ることや、ネスレの原材料調達の競争優位性の維持につながります。WASH活動の適用は、社員やコミュニティの健康とウェルネスの向上と、労働損失日数の削減につながることから、生産性にプラスの影響を与えます。

環境サステナビリティ

ネスレは栄養・健康・ウェルネス分野の大企業として、持続可能な消費を実現し、未来の世代のために資源を守ります。ネスレは、持続可能な形で管理された再生可能な資源の使用からさらに効率的な事業活動まで、そして廃棄物ゼロの目標へ向けた取り組みから気候変動対策の実行まで、真の進歩に向けたコミットメントと目標を設定しています。

使用済みのコーヒーカプセルから再生されました。「ネスプレッソ」のコーヒーカプセルがリサイクルされ、象徴的な物に生まれ変わりました。

気候変動リーダーシップを提供する

気候変動は、すでに食品飲料業界に影響を及ぼしています。食品飲料業界は安全な原材料の持続可能な供給に依存しています。天候の変化は使用する材料の栽培方法や栽培地を変え、食料安全保障に影響します。2016年のパリ協定を受け、温室効果ガス（GHG）排出量の削減は世界的な責務になったとネスレは考えます。ネスレはサプライチェーンを強化し、ネスレとともに働く農業従事者の気候変動への耐性向上を支援し、ネスレのバリューチェーン全体で排出量をさらに削減していきます。

2016年の私たちの目標

- ◐ 推進中 － RE100のメンバー企業として、最短で現実的なタイムスケールで、使用する電力の100%を再生可能エネルギー源から調達することを目指すこと。
- ● 2016年までに、すべてのネスレの新しいアイスクリーム用チェストフリーザー、アップライト（直立式）フリーザーおよびアイランド型フリーザーで、自然冷媒を使用すること。
- ● 2016年までに、工業用冷却システムにおいて、オゾン層を破壊せず、気候変動にほとんど影響を与えない自然冷媒の使用を拡大すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは過去10年間に、生産量を46%増やす一方で、製品1トンあたりのGHG直接排出量を39%削減し、大きく進歩しました。すべての製品カテゴリーにおいて製品1トンあたりのGHG排出量（スコープ1と2）を削減し、製造業務全体で2010年に比べて22%の削減を達成するなど、科学的根拠に基づく2020年の目標達成に向けて順調に進んでいます。

この排出量の削減は、エネルギーを節約し、業務効率を高め、再生可能エネルギーなどのクリーンな燃料に切り替えることにより達成できました。再生可能エネルギーは現在、ネスレの工場の総エネルギー使用量の17%を占めており、ネスレが購入する電力の29.6%（8.1ペタジュール）が再生可能エネルギーです。

ネスレは、'空車回送しない'ことに努めており、不必要な走行を減らし輸送効率を高めています。また、効率向上のため、いくつかの地域物流網の再編も行いました。目標の達成に向けて順調に進んでおり、2015年にはネスレの物流業務における排出量を2014年の基準と比べて2.7%削減しました*。これはGHG排出量にして6,600トン、自家用車に換算すると1,400台の削減に相当します。倉庫のエネルギー消費量についても、照明、冷暖房、断熱、倉庫内移動の改善によってさらに削減する方法を引き続き模索しています。

ハイドロフルオロカーボン（HFC）などの高い地球温暖化係数とオゾン層破壊係数を持つ合成冷媒は段階的に購入を停止しており、1992年以降、ネスレは工業用冷却システムの合成冷媒から自然冷媒への入れ替えに2億9,900万スイスフランを投資しました。また、新規の冷却システム47台の設置により、自然冷媒の使用をさらに拡大しました。ネスレは、サステナビリティ格付機関CDPの気候変動Aリスト企業に認定され、2016年ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの'環境・気候変動側面'で100点満点の評価で第1位にランクされるなど、気候変動への取り組みにおける世界のリーダーと認められています。

17%
使用するエネルギーに占める再生可能エネルギー源の割合

2020年に向けた私たちの目標

- ◐ 2020年までに、ネスレ プロフェショナルの新しい清涼飲料ディスペンサーで、自然冷媒を使用すること。
- ◐ 2020年までに、各製品カテゴリーで製品1トンあたりのGHG排出量（スコープ1と2）を削減し、製造業務全体で2010年と比較して35%削減を達成すること。
- ◐ 2020年までに、物流業務におけるGHG排出量を2014年と比較して10%削減すること。
- ◐ 2020年までに、主要な倉庫100カ所におけるGHG排出量を2014年と比較して10%削減すること。
- ⊕ 2020年までに、工業用冷却システムにおいて、オゾン層を破壊せず、気候変動にほとんど影響を与えない自然冷媒の使用を拡大すること。

* このデータは報告対象の排出量に基づいており、入手できる最新のデータは2015年のものです。2016年のデータは来年公表されます。

気候政策における透明性と積極的な長期的取り組みを推進する

私たちは、ネスレが気候変動リーダーシップを発揮できる立場にあると考えます。私たちが目指すのは、地球を守りながらネスレの事業とサプライチェーンの継続性を確保することです。したがって、気候変動により悪化する環境問題に対する解決策を見つけるために、引き続きステークホルダーとともに取り組んでいきます。

2016年の私たちの目標

- ● 2016年までに、気候変動情報開示基準審議会（CDSB）が立案した気候変動報告フレームワークを用いて、ネスレのアニュアルレポート一式に気候変動に関する情報を記載すること。

現在までの私たちの進捗状況

気候変動は世界的な課題であり、統一的な対応が求められています。私たちはネスレの明確なコミットメントに合致すると考えられる複数のイニシアチブを先導し、積極的に参加しています。これらのイニシアチブは、ネスレの社会、環境、未来の世代の尊重を反映しています。

ネスレのアニュアルレポート一式に、気候変動報告フレームワークを用いて気候変動に関する情報を記載し、目標を達成しました。

2016年、ネスレは米国政府の世界的食料安全保障対策フィード・ザ・フューチャーのクライメート・スマート・カカオ イニチアチブに加入しました。この活動は、ガーナとコートジボワールの小規模カカオ農家に、気候変動の問題を軽減する農業慣行の導入を支援することを目的としています。

ネスレの取り組みは引き続き、科学的根拠に基づくGHG削減目標、再生可能な電力、森林破壊、気候変動に関する報告、気候変動政策への関与、炭素価格設定というCDPの6つの気候変動問題への取り組みに沿ったものです。

『気候変動対策における責任ある企業エンゲージメントのためのガイド』の履行に関する目標については、慎重に検討した結果、2020年まで延長することとしました。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2020年までに、CDP、国連グローバル・コンパクト（UNGC）、セリーズ、気候グループ、世界自然保護基金（WWF）、世界資源研究所（WRI）が作成した『気候変動対策における責任ある企業エンゲージメントのためのガイド』を履行すること。

● 達成済　◐ 進行中　◔ 進行中（期限後）　⊕ 新たな目標

食品ロスと廃棄を削減する

国連食糧農業機関の推算によれば、人間が消費するために生産された食料全体の約3分の1が廃棄されています。この廃棄には明らかな社会的、環境的、経済的なコストがかかっており、それだけの食料を生産するのに農業関連用水の24%が使われ、人間活動によるGHG排出量の8%が発生し、消費者、農業従事者、企業に年間最大9,500億スイスフランのコストをかけています。ネスレは、食品ロスと廃棄の削減に取り組んでいます。2016年、ネスレCEOのポール・ブルケは、2030年までに食品廃棄物、食品ロスの削減に取り組む政府、産業界や非政府組織等のグループ「チャンピオンズ12.3」に加入しました。この参加により、ネスレは循環経済に貢献でき、農産物供給を確保しながら社会にプラスの影響を与えることができます。また、ネスレは企業としてコンシューマーグッズフォーラム（CGF）において、会員企業の事業活動から出る食品廃棄物を、「国連の持続可能な開発目標12.3（UN SDG 12.3）」の達成期限より5年早い2025年までに半減させるという公的決議の採択を主導しました。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、WRIが主導する、食品ロスと廃棄に関する測定および報告基準の策定に積極的に寄与しました。2016年6月には、グローバルグリーン成長フォーラムで行われた発表に参加しました。ネスレでは、この基準をパキスタンの乳製品サプライチェーンで試験運用し、より広範な使用を推進するため、2016年10月に開催されたCGFの第1回サステナビリティサミットでWRIと共同で研修会を実施しました。

廃棄物ゼロの目標については、廃棄物の生成を防ぐためのさまざまな対策を通じて達成を目指しています。特に力を入れているのは、経営効率、質、生産性――すなわち、より少ない資源でより多くの活動を、最初から適切に行うことです。2016年末までに、182のネスレ工場（39%）で廃棄物ゼロを達成しました。2006年と比べて廃棄物を77%（10万5,000トン）削減し、製品1トンあたりの廃棄物は82%減少しました。

2020年に向けた私たちの目標

- ◐ 推進中 － チャンピオンズ12.3のメンバーとして、2030年までに食品廃棄物の半減を目指す取り組みを加速させること。
- ◐ 2020年までに、ネスレの施設で廃棄物ゼロを達成すること。
- ⊕ 2020年までに、消費段階での食品廃棄物を削減するため、日付表示を消費者にとってわかりやすいものにすること。

捨てずに使おう

スイスのオルブにある「ネスカフェ」の工場では、使用済みコーヒーかすを焼却して蒸気を発生させ、廃棄物をエネルギーに変換しています。発生した蒸気は、「ネスカフェ」製品の製造過程において抽出、脱水などさまざまな工程で利用され、天然ガスへの依存度を大幅に削減しています。現在、ネスレの全世界の事業所のうち22工場で、使用済みコーヒーかすを再生可能燃料として利用しています。

ネスレ製品パッケージの環境パフォーマンスを改善する

製品パッケージは、食品の廃棄を防ぎ、ネスレの高い品質基準を保証し、消費者に情報を提供する上で極めて重要です。また、使用済みパッケージを回収し、再利用することで、目に見える変化を実現できる分野でもあります。ネスレが主に力を入れているのは、循環経済を促進し、海洋投棄対策となるような、エコデザインとパッケージ廃棄物管理の改善です。ネスレは、ライフサイクルアセスメント(LCA)を用いて、製品パッケージの環境パフォーマンスの向上を図っています。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、製品パッケージに必要最低量の包装材を使用します。効率的なエコデザインプロセスにより、パッケージ最適化に関する2017年の目標を1年早く、ほぼ達成しました。2016年には、22,525トンの包装材の使用を削減しました。これは4,330万スイスフランのコスト削減に相当し、二酸化炭素換算量にして430,893トン、自家用車に換算すると年間91,679台の削減に相当します。2017年から2020年の製品パッケージに関する目標を修正し、拡大しました。

輸送の影響も含めた製品パッケージの環境パフォーマンスを向上させるため、ネスレの『環境サステナビリティに関する方針』に沿った製品パッケージの最適化を継続しています。現在、ネスレが使用する包装材の34.9%は再生可能な材料で作られています。適切な廃棄物管理インフラが存在していなければ、廃棄物の回収はできません。そのため、ネスレはこの問題に重点を置き、最終的には海洋投棄を防止するよう、陸上でのパッケージ廃棄物管理を改善するイニシアチブを推進します。消費者にはパッケージ上の表示を通じて、プラスチックやその他包装材のリサイクルを奨励しています。

2020年に向けた私たちの目標

- ◐ 2017年までに、2015年から2017年にかけて、少なくとも10万トンの包装材を使用しないよう、パッケージポートフォリオの体系的な分析、最適化を継続すること。
- ⊕ 2020年までに、2015年から2020年にかけて、少なくとも14万トンの包装材を使用しないよう、パッケージポートフォリオの体系的な分析、最適化を継続すること。
- ⊕ 2020年までに、関連する10市場において、パッケージ廃棄物管理と海洋投棄の問題に取り組むため、関連するステークホルダーとの協力活動を推進すること。

製品が環境に与える影響を評価し最適化する

ネスレ製品を開発段階から廃棄、リサイクルにいたるまで評価、改善することにより、製品のライフサイクル全体にわたる環境影響を明確に把握できます。ライフサイクルアセスメント(LCA)により、水の保全、天然資源の効率的な利用、生物多様性の保護、大気排出量の削減、気候変動への適応、廃棄物の削減に注力することができます。

現在までの私たちの進捗状況

製品の環境パフォーマンスをより迅速に、開発プロセスの初期段階で評価できるネスレのエコデザインツール(エコデックス)が、研究開発部門全体に導入されました。ネスレは、LCAで生成されたデータを『ネスレ カテゴリー サステナビリティ プロファイル』を通じて社内で共有しています。このプロファイルは、大きな環境的影響のある分野(あるいは'ホットスポット(重点課題)')と、バリューチェーン全体で実施しているパフォーマンス向上について明らかにしたものです。2016年末までに、プロジェクト6,641件とシナリオ19,297件についてエコデザインツールを用いて評価し、19の製品カテゴリーについて『ネスレ カテゴリー サステナビリティ プロファイル』を発行しました。

外部機関と協力し、特に原材料に関して、エコデックスを支えるデータベースの開発をさらに進めています。2016年には、50件のエコデックス用データセットをデータベースに追加しました。社内では、サステナビリティ バイ デザイン ネットワークの専門家チームが、製品開発の最初期段階にサステナビリティへの配慮を組み込む方法を継続的に探っています。

ネスレは、EUの環境フットプリント(EU PEF)のパイロットイニシアチブに積極的に関与しており、運営委員会、およびパック入りの水、コーヒー、ペットフードの3分野のパイロットプロジェクトに参加しています。食品業界全体が信頼できる確かなデータセットから恩恵を得られるように、世界食品LCAデータベースの開発を引き続き支援しており、このデータベースがEU PEF準拠の研究に加えられたことを歓迎します。

2020年に向けた私たちの目標

- ◐ 2017年までに、15製品カテゴリーにおけるサステナビリティ'ホットスポット'を特定または更新し、対応すること。
- ◐ 2017年までに、エコデックスで使用される原材料農産物に関するデータベースの範囲をさらに拡大すること。
- ⊕ 2020年までに、20製品カテゴリーにおけるサステナビリティ'ホットスポット'を特定し、更新し、対応すること。

製品パッケージのデザインを最適化する

製品パッケージのデザインは、製品のライフサイクル全体を通じて環境パフォーマンスに大きく寄与します。過剰包装は廃棄物の発生につながりかねない一方で、適切に包装されていないと製品の損傷や汚染が起こりやすくなり、食品廃棄につながります。従って、適切なバランスを見つけることは難しい課題ですが、価値のある結果をもたらすことができます。ネスレは環境パフォーマンスをさらに向上させるため、革新的な包装材の使用についても研究しています。

有意義で正確な環境情報を提供し対話する

明確で関連があり、科学的根拠に基づく情報があれば、人々はさらに持続可能な行動をとりやすくなると考えます。ネスレは、リサイクル活動や、エネルギーや天然資源の使用低減を呼びかけるなどの方法で、人々により持続可能な暮らし方を奨励することを目指します。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレは、LCAにより製品の環境パフォーマンスを明確に把握できます。LCAの評価結果を利用して、消費者やその他の関心のあるステークホルダーに情報を提供しています。また、食品廃棄物を出さない方法や、パッケージの再利用、リサイクル、処分方法について助言もしています。ネスレ製品の多くは、原材料、製造方法、ネスレの『責任ある調達ガイドライン』を含む基準の順守について明記され、環境サステナビリティ面が強調されています。

社内外のステークホルダーとの関わりを通じて、関連する科学的根拠に基づいた情報を伝えるよう努めています。2016年には、131カ国で製品パッケージ、ブランドウェブサイト、企業ウェブサイトを通じて、消費者やその他の関心のあるステークホルダーに情報を提供しました。50カ国でQRコードを導入し、製品パッケージに表示したQRコードから、関連コンテンツをわかりやすく記載したモバイルウェブサイトにアクセスできるようにしています。

2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2020年までに、ネスレのデジタル媒体やその他媒体で消費者向けに提供する事実に基づく環境情報を、より入手しやすく一貫性のあるものにすること。

森を含む自然資本を保全する

ネスレの長期的な成功は、自然資本、特に森林、土地、土壌と水に依存していると私たちは理解しています。ネスレは、天然資源の責任ある管理者として取り組みながら、特に水の保全、2020年までの森林破壊正味ゼロの実現、土壌管理、生物多様性の保全に関して、自然資本を守るために事業活動を展開することを目指しています。

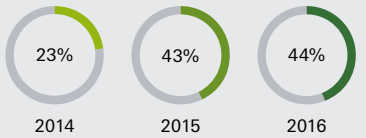
2016年の私たちの目標

● 2016年までに、12の主要カテゴリーの原材料総量の40%が、『責任ある調達ガイドライン(RSG)』の要求事項に照らして評価され、適合していること。あるいは、自然資本の保全のための改善計画が実施されていること。

現在までの私たちの進捗状況

12の主要カテゴリーのサプライチェーンで、RSGを継続的に実施しています。パーム油、大豆、パルプと紙など重要とみなされるカテゴリーでは、森林破壊の問題に積極的に取り組んでいます。サプライヤーと協力し、調達の計画、パフォーマンスの評価、そして改善活動を支援しています。畜肉、乳製品、穀物、カカオ、コーヒーなどその他のカテゴリーでは、生産地によって特有の問題が生じる場合があり、状況に応じて対応しています。自然資本連合のメンバーとして、2016年にネスプレッソ事業において自然資本プロトコルを試験運用しました。このプロトコルは、各組織が自然に与える影響と自然への依存度を評価できるよう支援するものです。

ネスレの『責任ある調達ガイドライン(RSG)』の要求事項に照らして評価した主要カテゴリーの原材料総量の割合(%)



2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2020年までに、12の主要カテゴリーの原材料総量の70%が、『責任ある調達ガイドライン(RSG)』の要求事項に照らして評価され、適合していること。あるいは、自然資本の保全のための改善計画が実施されていること。

投資家のメリット

ネスレの環境サステナビリティ分野の取り組みは、ミレニアル世代を中心に、より持続可能な製品を求める傾向を強めている消費者に喜ばれることで、収益増につながります。また、原材料、包装材、エネルギー、水などの資源利用効率の向上と廃棄物の削減により、コスト削減の機会も生まれます。原材料調達における気候変動への適応と影響緩和への投資により、将来の消費者ニーズに対応できます。

人材、人権とコンプライアンス

ネスレは191カ国で事業を展開し、32万8,221人の社員が働く多様性のある企業です。ネスレの価値観は敬意に根差しています。私たち自身への敬意、他者への敬意、多様性への敬意、そして未来への敬意です。よい職場環境を提供し、社員の安全、健康、意欲を維持することは、ネスレの最優先事項です。また、ネスレにはバリューチェーンにおいて人権を尊重、推進し、最も高い倫理基準に従って事業を行う責任があります。

「Nestlé Helps」イニシアチブのもとで採用されたエチオピア難民の若者スレマン・バリソは、ドイツのビーセンホーフェン乳児用調製粉乳工場で働いています。

事業活動全体における人権への影響を評価し対処する

人権を尊重する責任は、ネスレの事業において最も重要と位置付けられます。ネスレは、事業活動における人権尊重に関するリスクを継続的に見直し評価し、社員、取引先、バリューチェーンの中で関係する人々の権利に及ぶ悪影響を防止し、対処するよう努めています。『人権デューデリジェンスプログラム』を通じて、人権に関する顕著な課題（企業の活動や取引関係を通じて、最も重大な影響が及ぶリスクのあるもの）を特定して管理し、国連指導原則（UNGP）の報告枠組みに沿って進捗状況を報告します。

2016年の私たちの目標

◔ 2016年までに、重大と認められた人権リスクについて、それぞれ行動計画と目標を立案すること。

現在までの私たちの進捗状況

9,573人
FTSE4Goodによる懸念国で人権に関する研修を受けた社員数

FTSE4Goodによる懸念国で、全社員に研修を実施するという2015年の目標の達成に向けて取り組みを継続しました。国連のビジネスと人権に関する指導原則の報告枠組みを採用したことを受け、11の顕著な課題のうち7件について、行動計画と目標を立案しました。2016年は、エジプトで人権影響評価を実施しました。

児童労働の根絶に向けた取り組みに引き続き力を入れており、児童労働の根本原因の特定と対処により重点を置いています。

2016年、タイで調達される水産物に関する行動計画を本格展開しました。計画には、このサプライチェーンにおいて確認されている虐待から労働者を守るための一連の行動が含まれています。タイ政府やその他の主要なステークホルダーと協力しながら、この問題に継続的に取り組んでいます。

2015年にイギリスで制定された現代奴隷法への対応として、ネスレUKは現代の奴隷制と人身売買に関する詳細な報告書を発表しました。この報告書には、ネスレのサプライチェーンにおける労働に関して、奴隷制やあらゆる形態の人間搾取の撲滅のためにネスレが導入している仕組みと、実施している対策をまとめています。

2016年は、ネスレが事業を行っているFTSE4Goodによるすべての懸念国で、人権に関する方針を適用し、人権尊重に関するリスクを減らすため社員を研修するという2015年の目標に向けた取り組みを継続しました。現在、該当する13カ国のうち計12カ国が影響評価の対象となっています。

2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2017年までに、特にネスレの施設（グリーンフィールドプロジェクトとブラウンフィールドプロジェクトを含む）、現地コミュニティ、現地販売業者、委託製造者、合弁企業などのネスレのビジネスパートナー、M&Aに関して、既存の基準、監査プロトコルとデューデリジェンス手続きにおける人権の主流化を強化すること。

◐ 2018年までに、ネスレが大規模に事業展開している国々において、さらに6件の人権影響評価を実施すること。

⊕ 2019年までに、人権に関するリスクと機会を管理する実効性のあるガバナンス体制を、すべての市場において整備すること。

⊕ 2020年までに、ネスレ全社員に人権に関する研修を実施すること。

● 達成済　◔ 進行中（期限後）
◐ 進行中　⊕ 新たな目標

ネスレの農業サプライチェーンにおいて労働者の生活を改善し、子どもを保護する

ネスレは、サプライチェーン全体で労働者の生活を向上させ、労働者の権利を守ることを目指しています。労働者の権利に関する顕著な課題がいくつかあり、そうした問題の根本原因を特定し、対処するための行動計画を策定中です。子どもの保護は私たちの最優先課題です。ネスレの児童労働モニタリングと改善要請システム（CLMRS）は、児童労働に対処し、農業従事者や労働者の子どもを支援するための主要なプログラムです。

2016年の私たちの目標

● 2016年までに、外部パートナーとの協力により、農業サプライチェーンにおける労働者の権利に関するロードマップを作成し、調達国のすべての主要な農作物において、労働者の権利に関する顕著な課題（児童労働、結社と団体交渉の自由、強制労働、健康と安全、生活賃金、労働者の住宅と基本的なサービスニーズ、労働時間）に対処すること。

現在までの私たちの進捗状況

ネスレのカカオサプライチェーンで運用している児童労働モニタリングと改善要請システム（CLMRS）の、コートジボワール全域への導入を継続しました。2016年、CLMRSはさらに29の農業協同組合に導入され、対象となる組合は合計で69になりました。今後、年間を通じて実績を注意深くモニターし、児童労働に関する重要な調査結果と教訓になる点をまとめた主要な報告書を2017年に作成する予定です。2016年はこのシステムをガーナにも導入しました。

新規の児童労働監査を、砂糖と水産物のサプライチェーンで実施しました。また、穀物のサプライチェーンで農場評価プログラムを開始しました。結果は来年の予定です。

ヘーゼルナッツの収穫に従事する子どもの数が増えていることが確認されました。おそらく、トルコに入国するシリア難民の増加が原因と思われます。是正活動として、子どもたちをサプライチェーンでの労働から引き離し、教育を受けさせる措置がとられました。引き続き主要パートナーと協力して、この問題に取り組みます。

マダガスカルのバニラのサプライチェーンでは、二次サプライヤーのマネと連携し、現地での児童労働是正活動を拡大しました。

2016年は、シリアやアフリカ南部からの移民労働者の急増に伴い、移民労働者の問題とそれが児童労働に与える影響が特に顕著になりました。こう

した国々から来た労働者がどのようにして雇用されているかを把握することによって、児童労働の根本原因について理解を深めることができます。

また、実施された監査から、現状の監査システムが、児童労働の根本原因に対処するには適さなくなっていることもわかりました。現在、より効果的に根本原因に対処できる取り組み方を特定し実施するため、公正労働協会(FLA)と協力しています。

69
CLMRSの対象となる
カカオ農業協同組合の数

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2017年までに、労働者の権利に関する顕著な課題について、それぞれ明確な優先課題を示したロードマップを発表すること。
- ⊕ 2018年までに、労働者の権利に関する顕著な課題のうち、選ばれた一部について、ネスレの介入策の恩恵を受けた農業サプライチェーンの労働者数について報告を開始すること。
- ⊕ 2020年までに、労働者の権利に関する顕著な課題のすべてについて、ネスレの介入策の恩恵を受けた農業サプライチェーンの労働者数について報告を開始すること。

組織全体で誠実な企業風土を醸成する

このコミットメントは、腐敗と賄賂に対抗する従来のコミットメントに代わり、さらに強化したものです。

ネスレは、賄賂と腐敗に断固として反対します。ネスレは事業運営においてこの種の慣行を一切容認しません。この問題についてのネスレの立場は、『ネスレ考働規範』に明確に述べられています。腐敗防止プログラムはすべての市場と事業で展開されており、コンプライアンスに関するeラーニング講座により、全社員が自らに求められている役割を理解できるようにしています。

2016年の私たちの目標

- ● 2016年までに、さらなる強化が必要な市場と事業で、現地腐敗防止方針の実施手順を採用すること。

現在までの私たちの進捗状況

2016年は、全社的な取り組みが各地域でも確実に機能するよう、ネスレの市場における腐敗防止方針の立案に力を入れました。すべての市場に対し、既存の方針を見直し、必要に応じて強化するよう求めました。2016年末までに、33の市場で、目標を達成するには方針を改善しガイドラインを強化する必要があることが確認されました。

リスクのある、あるいは研修が必要とみなされる市場や職務に就く社員に、研修を提供しています。2016年には、36,524人の社員が腐敗防止問題の研修を受けました。

ネスレのCARE監査プログラムでは、人権と労働慣行、ビジネスの誠実さ、安全と健康、環境サステナビリティ、セキュリティに関するコンプライアンスを評価する独立した評価法を用いています。2016年には235件のCARE監査を実施し、対応が必要なコンプライアンス違反が130件確認されました。うち60件はすでに是正され、残りについては対処中です。

36,524人
腐敗防止の研修を受けた
社員数

2020年に向けた私たちの目標

- ◐ 2017年までに、コンピューターにアクセスできる社員が、2015年に始まったコンプライアンスに関するeラーニングプロセスを完了すること。市場において、主要な企業コンプライアンス慣行が実施され、改善点が明確になっていることを確認すること。
- ⊕ 2018年までに、市場において、経営トップの姿勢をさらに強化し、率直な意見表明を奨励するコンプライアンスコミュニケーション計画を導入すること。CARE監査の人権に関する面を改善し、各拠点で新しいプロトコルによる監査のスケジュールを確定すること。
- ⊕ 2019年までに、市場において、ビジネスの誠実さに関する管理職研修用の企業ツールキットに基づき、リーダーシップ責任としてコンプライアンスを強化すること。
- ⊕ 2020年までに、コンプライアンスに関する活動と方針について、進化する製品ポートフォリオの観点から事前レビューを実施すること。

認証を受けた安全衛生マネジメントシステムでネスレの全社員を守る

ネスレは、安全衛生が社内の最優先事項となる風土の醸成に努めており、職務関連の傷害や疾病をゼロにすることを目指しています。ネスレの新しい「安全衛生ロードマップ」が、この目標に向けた前進を後押ししています。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、全社員を対象とした、OHSAS 18001:2007の認証を受けたしっかりとした安全衛生マネジメントシステムを整備し、安全衛生の保護が全事業にわたって均一なレベルにあること。

現在までの私たちの進捗状況

79%
認証を受けた
安全衛生マネジメントシステムの
対象となる社員の割合

ネスレの「安全衛生ロードマップ」が2016年に更新され、下記のような2018年までのハイレベルの優先課題が定められました。

- 全員参加
- 重要リスクの管理
- 栄養・健康・ウェルネスへの熱意
- マネジメントプロセス

このロードマップは、目標達成に向けた計画立案の指針となります。

2016年末の時点で、英国規格OHSAS 18001の認証を受けた安全衛生マネジメントシステムで対象となるネスレ社員の割合は79%に達しました(ネスレ スキンヘルスの社員を除く)。ネスレの人事チームは、「生産部門にとどまらない安全衛生」を推進し、営業や事務系部門でのコンプライアンス向上を図っています。また、管理職の能力向上のため、リーダーシップ研修プログラムを導入しました。「ネスレ社員の健康のための枠組み」の実施の理解が全市場で進んでおり、既存の取り組みに集中し、構造化して、ベストプラクティスを推進し、今後の発展に役立てています。

社員の男女比バランスを改善し、バリューチェーン全体で女性の地位を向上させる

ネスレの事業とサプライチェーン全体におけるダイバーシティ(多様性)は、真の資産であると私たちは考えています。特に男女比バランスと女性の地位向上に力を入れています。男女比バランスに関するネスレの取り組みは、特に幹部と管理職に重点を置いて、あらゆる階層でバランスを改善することを目的としています。サプライチェーン全体で、女性の発言力拡大と経済的自立のための取り組みを実施、支援しています。

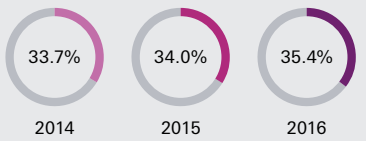
現在までの私たちの進捗状況

目標の達成に向けて順調に進んでいます。2016年には、「ダイバーシティとインクルージョン(受容:さまざまな意見やアイデアを受け入れ尊重すること)の枠組み」を導入し、イノベーション、社会、文化に影響を及ぼす戦略のビジネスケースを提示しました。この枠組みは、ダイバーシティの各分野を網羅しています。男女比バランスが主な重点であることは変わりませんが、補完するものとして、障がい者のインクルージョン、世代間協働、多文化主義などの取り組みも含まれています。

2016年末の時点で、全社内の3,779人の社員が無意識な偏見に関する研修を受けました。この研修は各市場のさまざまなプログラムに組み込まれています。2016年に、カカオサプライチェーンで25の農業組合に対してジェンダー意識に関する研修を実施し、これまでに全体の36%の組合がこの研修を受けました。コートジボワールでは2つの女性フォーラムを実施し、175人の女性に対し、コミュニティでの発言力拡大を支援しました。

また、世界各地で「国際女性の日」を支援するイベントに参加しました。

リーダーシップ職に占める女性の割合(%)



2020年に向けた私たちの目標

- 2017年までに、農業従事者研修支援プログラム(農業起業家の育成)を男女、若者が平等に利用でき、農場労働者にも提供されるものにすること。
- 2018年までに、女性の管理職と幹部(市場経営メンバーと本社における重要な役職)の割合を毎年高められるよう、ネスレの職場環境でそれを可能とする状況を作ることで、男女比のバランスが取れた企業になっていること。
- 2020年までに、重要度の高い5つの調達地域において、女性の生活が改善されていること。

道路交通安全についての研修

ネスレ パキスタンは社員の安全とウェルビーイングの確保を目的として、連邦高速道路警察(NH&MP)と協力し、シークープラ近郊に初のドライバー研修所を設置しました。現在までに、ネスレ社員約4,100人を含む15,500人以上のドライバーが研修を受けました。この研修は、ドライバー自身だけでなく、その家族や、彼らが暮らすコミュニティにもプラスの社会的影響をもたらしています。

社員とステークホルダーに実効性のある苦情処理の仕組みを提供する

このコミットメントは、全社員とステークホルダーがコンプライアンス違反の疑いを容易に報告できる体制を構築するという従来のコミットメントに代わるものです。

私たちは、『ネスレの経営に関する諸原則』に示されている強いコンプライアンス文化づくりに取り組んでいます。内部報告と外部監査を通じて、ネスレの原則に沿った経営を行うよう努めています。社員、サプライヤー、ステークホルダーには不適切または違法と考えられる事例や行為を報告するよう奨励しており、すべての苦情を公正に調査し、報復を禁止しています。違反行為は即座に中止、適切な対応策を実施します。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、秘密厳守の報告ラインがあるという認識を組織全体で強化すること。
- 2016年までに、'Tell Us'に関するコミュニケーションをサプライヤーや下流部門のビジネスパートナーと第2段階の国々(追加の20カ国)に継続的に拡大すること。

現在までの私たちの進捗状況

「ネスレ誠実性報告システム」(内部苦情処理の仕組み)により、社員は違法行為や違反行為を匿名で通報するとともに、助言や情報を求めることができます。このシステムはネスレの市場の100%で導入され、伝達されています。通報件数と違反の内容については、『ネスレ共通価値の創造報告書』の完全版で公表しています。

'Tell Us' システムは、『ネスレの経営に関する諸原則』や適用される法律への違反行為が疑われる事例をステークホルダーに報告するためのコミュニケーションチャネルです。7,748のサプライヤーが利用できます。

2016年には、さらに35カ国のネスレが 'Tell Us' のリンクを現地の企業ウェブサイトに掲載しました。

2020年に向けた私たちの目標

- ⊕ 2017年までに、法的に可能な場合、ネスレの市場のウェブサイト上で 'Tell Us' についてコミュニケーションすること。市場において、苦情処理システムを通じて通報されたコンプライアンスに関する苦情の管理、評価、調査に社内のベストプラクティスを適用すること。
- ⊕ 2018年までに、市場において、本社が提供するツールを使用して、選択されたコンプライアンス事例の根本原因分析を実施すること。
- ⊕ 2019年までに、社内外のステークホルダーに対する苦情処理システムの有効性を評価し、改善機会を特定すること。
- ⊕ 2020年までに、パイロット市場において苦情処理システムの改善を実施すること。

事業全体において グローバルユース・イニシアチブを 実施する

国際労働機関の推定によれば、世界における若者の失業率は13.1%に達しており、これは世界的貧困につながる問題です。ネスレは大手雇用主として、直接的にも業者を通じても、プラスの変化をもたらすことができます。

2016年の私たちの目標

● 2016年までに、ヨーロッパの30歳未満の若年層に1万の雇用機会と1万の実習生もしくは研修生の枠を提供し、この年齢層の失業問題に取り組むこと(2014年からの累積)。

現在までの私たちの進捗状況

2014年から2016年までに、ヨーロッパの30歳未満の若年層に20,517の雇用機会と12,385の実習生もしくは研修生の枠が提供されました。2016年だけで見ると、6,778の常勤職および臨時職と、4,206の実習生または研修生の枠を提供しました。ネスレが発足させた'Alliance for YOUth'の取り組みには約200の企業が参加しており、ヨーロッパの62,000人以上の若者の就職や実習の機会を支援しました。

南北アメリカでは、2015年から2016年までに、16,185の雇用機会と7,601の実習生または研修生の枠が30歳未満の若者に提供されました。

2016年には中東、アフリカ、アジア、オセアニアでもこのイニシアチブを発足させたことで、2017年以降、南北アメリカを含むネスレの3つの事業地域のすべてをカバーするグローバルな取り組みを行う体制ができました。

2020年に向けた私たちの目標

⊕ 2020年までに、ネスレのグローバルユース・イニシアチブを通じて以下を実現すること。

- 45,000から50,000の実習生もしくは研修生の枠を提供すること。
- 就職準備イベントを世界的に継続し、この種のイベントに関与する社員数を増やすこと。
- 外部パートナーとの連携を強め、参加と影響拡大を促すこと。
- 30歳未満の若者に毎年20,000から25,000の雇用機会を提供すること。

次世代を育成する

人材は、ネスレの最も重要な資産です。私たちは社員向け研修に加え、若者の失業問題に取り組むグローバルユース・イニシアチブの一環としても、実習制度やその他の就職準備の取り組みと並行して研修機会の拡大に取り組んでいます。雇用や研修の提供は、若者が貧困から抜け出す助けになると同時に、才能ある新たな人材がネスレに入社する経路にもなります。若者の失業が依然として世界中で大きな問題となっている中、ネスレのグローバルユース・イニシアチブは、雇用機会だけでなく実習や研修の機会も提供し、若者が就職に必要な経験を積むことができるイベントや協力活動も展開していくことを確約しています。

『ネスレの経営に関する諸原則』、栄養、環境サステナビリティに関する研修を社員に実施する

ネスレは、健康的でバランスのとれた食事、自身のキャリアアップ、環境目標への貢献と事業目標の達成に役立つ社員向け研修を実施しています。『ネスレの経営に関する諸原則』に関する研修は、社員がネスレのビジネスモデルに対する理解を深めることにも役立っています。

2016年の私たちの目標

- 2016年までに、ネスレの全事業所で新入社員オリエンテーションプログラムに栄養指数(NQ)トレーニングを組み入れること。
- 2016年までに、環境意識に関する研修をすべての国で実施すること。

現在までの私たちの進捗状況

新入社員オリエンテーションプログラムにNQ基礎モジュールを組み入れるという目標については、2016年末の時点でネスレの市場の92%で達成されています。残りの市場については、2017年第1四半期末までに導入することを確認しています。

環境意識に関する研修を、ネスレが事業展開する国の95%で実施しました。計5,611人の社員がeラーニングコースを無事修了し、環境サステナビリティリーダーシップのワークショップをグアテマラ、中東、ニカラグア、パナマ、スペイン、スイス、タイで開催しました。

2020年に向けた私たちの目標

- 2017年までに、ネスレの国際研修センターの全コースと、全社員が受講できるeラーニングに『ネスレの経営に関する諸原則』を完全に組み入れること。
- 2020年までに、環境サステナビリティに関する研修をすべての国で実施し、社員の環境意識を継続的に強化すること。

健康的な職場と社員の健康促進を奨励する

生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献することは、ネスレの社員の安全と健康を確保することから始まります。ネスレは、社員が自身の健康について十分な情報に基づいて意思決定をしてほしいと考えています。栄養・健康・ウェルネスに対するネスレの熱意は、「2016−2018年安全衛生ロードマップ」の戦略的優先課題事項の一つであり、「ネスレ社員の健康のための枠組み」を実現する手段でもあります。

ネスレは社員の健康とウェルビーイングをかねてから重視していますが、これをさらに進めて、ネスレのコミットメントとして長期的な目標を明確に示すことにしました。2016年には、社員の健康リスクの評価手法について検討し、効果的な実施方法を評価しました。

ネスレは、社員がこの分野に関する知識を一層深め、その知識を使って自身の食事、健康、ウェルビーイングを改善できるようになることを目指しています。広報活動やキャンペーン、イベントを通じて、より健康的なライフスタイルのメリットを広く伝え、人々が摂取する食品や、運動の効果、ウェルビーイングの向上に役立つ習慣についての詳しい情報を提供します。また、主要な指標をモニターし、ネスレの目標に対する今後の進捗状況を報告できるようにするための方法論を開発します。

また、全市場を支援する目的で、「グローバル共有プラットフォーム」を導入しました。このプラットフォームは、健康とウェルネスに関する取り組みについて教育を提供することで、全市場で「ネスレ社員の健康のための枠組み」との連携を強化し、'友人同士の助け合い'によるソリューションを確立します。

2020年に向けた私たちの目標

- 2020年までに、より健康的なライフスタイルの選択肢を支援する教育、早期スクリーニング、プログラムをネスレ社員に提供すること。

投資家のメリット

消費者に、サプライチェーンにおける人権に配慮した製品を求める傾向が強まっている中、ネスレは常に規制の先を行き、コスト削減と収益増につながる取り組みを行っています。ネスレの事業は、グローバルユース・イニシアチブなどの取り組みを通じて優秀な人材を集め、定着させることによりメリットを受けています。社員研修や能力開発で高い評価を受ければ、企業が人材を採用し、つなぎ留める能力はさらに高まります。

ネスレの重要課題

ネスレでは、ステークホルダーの最大の関心事であり、ネスレの事業に最も重要な課題に優先的に取り組むため、正式な重要課題分析を2年ごとに実施しています。その方法論と最新の評価結果を以下にご紹介します。

重要課題プロセス

ネスレの事業とステークホルダーにとって最も重要な課題を特定し、報告と戦略的な意思決定をより良く支援するため、独立したコンサルティング会社であり、企業サステナビリティを専門とするシンクタンクであるSustainAbility社と協力し、正式な重要課題プロセスを運用しています。詳細なコンサルティングを行った後、ネスレの評判、収益、コストに関連するリスクと機会を決定するために、環境、社会、ガバナンス(ESG)に関する関心事項を特定して評価します。

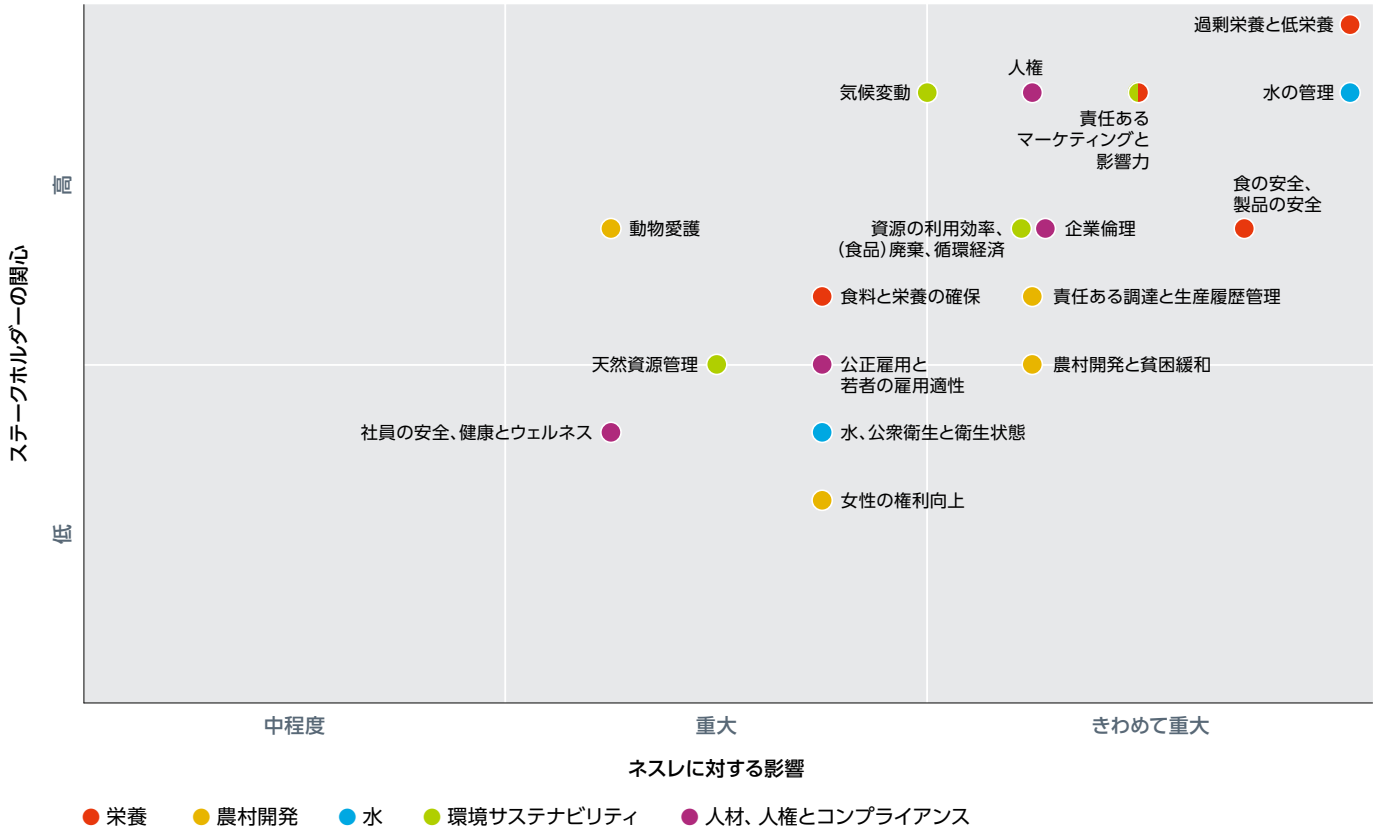
2016年、SustainAbility社は、以下の4つの作業段階にわたって重要課題分析を更新しました。

- 課題の特定
- 事業への影響の評価
- ステークホルダーの関心の評価
- レビューと検証

課題は、ステークホルダーの関心度と事業に与える潜在的な影響度に照らしてマトリックス(下図参照)上に配置します。この評価結果は全体として、ネスレの事業が直面する重要課題を表します。これらの課題は切り離して考えるべきではなく、通常相互に関連しており、ある課題における改善が他の課題における変化につながる場合もあります。

重要課題プロセスの詳細については、完全版の報告書をご覧ください。

2016年ネスレ重要課題マトリックス



17の重要課題が、共通価値の創造の5つの注力分野の下にまとめられました。
各課題には副課題が含まれ、これらについては完全版の報告書で詳しく説明しています。

栄養・健康・ウェルネス

食料と栄養の確保
安全で栄養価の高い食料を、手頃な価格で十分に入手できるようにすること。

過剰栄養と低栄養
すべてのライフステージで、最適な栄養・健康・ウェルネスを支援すること。製品ポートフォリオの入れ替え、製品とサービスの開発とリノベーション、手の届く価格帯の製品を通して、過剰栄養や低栄養、関連する微量栄養素欠乏症、過体重や肥満などの状態や非伝染性疾患(NCD)などへの対応を推進すること。

食の安全、製品の安全
高品質の製品を保証し、バリューチェーンを通して製品の使用、消費、取り扱い、調理、保存による健康リスクを防ぐこと。

責任あるマーケティングと影響力
健康に良い選択肢とより良い環境的成果を推進するために、消費者にとって適切なマーケティングを行い、消費者行動を形成すること。

農村開発

農村開発と貧困緩和
持続可能な農業コミュニティを推進し、貧困を緩和するため、直接的、間接的に経済活動を推進し、サプライチェーンにおける農業従事者の生活を改善すること。

責任ある調達と生産履歴管理
主要な原材料が責任を持って確実に栽培、加工されており、原産地を可能な限り追跡できること。

動物愛護
サプライチェーンにおいて動物のウェルビーイングを守り、家畜の健康と愛護を推進すること。

女性の権利向上
バリューチェーン全体にわたって、女性が社会と経済に完全に参加できるよう女性の権利向上に努めること。

水

水の管理
共有の水資源の持続可能な管理のため個人または共同で必要な活動を実施すること。

水、公衆衛生と衛生状態
バリューチェーン全体で、安全な水と公衆衛生、そして個人の衛生を確保するための適切な衛生施設へのアクセスを改善すること。

環境サステナビリティ

天然資源管理
天然資源と生態系サービスを特定し、保護すること。

気候変動
温室効果ガスの排出を削減し、気候変動による悪影響の緩和(および悪影響への適応)に貢献すること。

資源の利用効率、(食品)廃棄、循環経済
原材料の直接的、間接的な使用量を削減、廃棄物を減らし、副産物の回収、再利用またはリサイクルの機会を最大限に高め、廃棄物を適切に処分すること。

人材、人権とコンプライアンス

公正雇用と若者の雇用適性
ネスレの人的資本を開発すること。社員との良好な関係の維持、良好な労働条件の推進、若者の雇用を含む。

社員の安全、健康とウェルネス
職場における事故ゼロを目指し、安全で健康的な社員の行動を推進すること。社員が健康的なライフスタイルを実現、維持するため十分な情報に基づいて意思決定できるよう支援すること。

人権
ビジネス活動、事業運営とサプライチェーンにおいて人権を尊重すること。

企業倫理
ビジネスと職場の倫理原則を貫くこと。

ステークホルダーとの関わり

共通価値の創造の課題について、ステークホルダーの関心を集め、ともに取り組むことは、ネスレの事業運営の中核にあります。ネスレは、最良の専門家や支援者から助言を求めながら、企業方針とコミットメントの策定と改善、事業の強化、社会的投資の対象を設定にあたっています。

ネスレのアプローチ

ネスレのステークホルダーの世界的なネットワークは、事業活動を通じて定期的に関わる方から、ネスレの活動に影響を及ぼす公職にある方まで、広い範囲に及びます。社員、消費者、サプライヤー、コミュニティから、各国政府、非政府組織、株主、産業界と事業者団体、学界まで多岐にわたります。

ネスレのステークホルダー会議や共通価値の創造フォーラムの年間プログラムは、重要な社会的課題への理解を深め、対話を強化する機会です。ここでの相互交流がネスレの人材の能力向上につながり、協働活動を促進し、信頼と相互尊重を深めます。こうした対話の成果はNestlé in society諮問委員会を通じて経営陣に報告されます。

ネスレのステークホルダーとの関わりの詳細については、www.nestle.com/csv/what-is-csv/stakeholder-engagement をご覧ください。

ステークホルダー会議

ネスレのステークホルダー会議は、独立した立場から意見やフィードバックをいただくために、外部の専門家が主催し運営しています。これらの会議では、ネスレが共通価値を創出できる分野を中心に、ネスレのバリューチェーンに特有な課題を取り上げます。

2016年3月30～31日にスイスのジュネーブで開催されたステークホルダー会議には、NGO、学界、政府、国際機関の代表者らが参加しました。ステークホルダー64名、ネスレS.A. CEOのポール・ブルケとネスレ社員18名が出席したこの会議では、ネスレの共通価値の創造コミットメントとパフォーマンスについて意見交換を行い、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援する協働活動の促進におけるネスレの役割について検討しました。

2016年共通価値の創造グローバルフォーラム

2年に1回開催される共通価値の創造グローバルフォーラムは、天然資源が制約され気候変動が進む中、重大な社会経済的課題への対応におけるビジネスの役割について、考察と対話を促すことを目的として、丸1日かけて行うイベントです。

2016年のフォーラムは、‘アフリカにおける持続可能な開発への投資’をテーマに、2016年6月21日にコートジボワールのアビジャンで開催されました。ビジネス、市民社会、政府のリーダーが一堂に会し、アフリカ大陸に影響のある重要なトピックについて議論しました。コートジボワールのダニエル・カブラン・ダンカン首相兼経済財務相をはじめ、多くの大臣が出席されました。

コフィー・アナン元国連事務総長やハーバード・ビジネス・スクールのマイケル・ポーター教授など著名な専門家が参加し、より強い経済とコミュニティの構築、健康と栄養の確保、農業従事者の耐性強化、包括的で持続可能な経済成長へのアプローチなど、さまざまな課題について掘り下げた議論が行われました。

ネスレCEOのポール・ブルケと、共通価値の創造大賞を受賞したカメルーンのアグロ-ハブの代表者。アグロ-ハブは、小規模キャッサバ農家を市場に結びつける活動に取り組んでいます。

コフィー・アナン財団会長を務めるコフィー・アナン元国連事務総長が、アフリカにおけるより強い経済とコミュニティの構築をテーマに基調講演を行いました。

ネスレにおける共通価値の創造の歩み

2006年
中南米地域で導入された、ネスレの企業の社会的責任に関する理念を公表。バリューチェーンを農産物原材料、製造と管理、製品と消費者の3つに区分した枠組みによる報告書を作成。

2007年
3つの共通価値の創造の注力分野、栄養、水、農村開発を特定。

2008年
初の報告書、2007年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行、共通価値の創造の概念をサステナビリティとコンプライアンスも含めて一つの図に表した「共通価値の創造ピラミッド」を掲載。

2009年
第1回共通価値の創造フォーラムをニューヨークの国連本部で開催。

2010年
2冊目となる、グローバルな2009年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行。第2回共通価値の創造フォーラムをロンドンで開催。第1回ネスレ共通価値の創造大賞をiDEカンボジアが受賞。

2011年
2010年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行、第3回共通価値の創造フォーラムをワシントンDCで開催。GRI報告枠組みを採用。

2012年
2011年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行。完全版のオンライン報告書をGRIのA+基準に沿って発行。第4回共通価値の創造フォーラムをインドで開催し、共通価値の創造大賞をフンダシオン・パラグアヤが受賞。

2013年
栄養に重点を置き、未来に目を向けたコミットメントを初めて提示した、2012年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行。第5回共通価値の創造フォーラムを米州開発銀行との共催によりコロンビアで開催。

2014年
2013年版『ネスレ共通価値の創造報告書』を発行。第6回共通価値の創造フォーラムを国連貿易開発会議との共催によりスイスで開催し、共通価値の創造大賞をハニー・ケア・アフリカが受賞。

2015年
2014年版『ネスレ共通価値の創造報告書』で、ネスレのコミットメントに関する進捗状況を報告。

2016年
「持続可能な開発目標(SDGs)」を支援する、2030年に向けた3つの包括的な長期的な目標を導入。合計42項目となったコミットメントは、その大部分を2020年に向けて更新。第7回共通価値の創造フォーラムをコートジボワールのアビジャンで開催し、共通価値の創造大賞をアグロ-ハブが受賞。

ステークホルダーからの提言

ジュネーブで開催された2016年ステークホルダー会議の参加者から、多くの提案がありました。そのうちの主要な課題を、ネスレの対応とともに以下に紹介します（一覧リストは完全版の報告書に掲載します）。このフィードバックは、ネスレの事業の重要課題を評価する際にも考慮します。

ポートフォリオの一貫性を確保する
ネスレの製品ポートフォリオ、プログラムと、栄養、健康に関してネスレがとる立場との一貫性が重要であることが、参加者から強調されました。異なる管轄下での製品の栄養プロファイルの一貫性も重要と指摘されました。

→ **ネスレの対応**
栄養に関するコミットメントを見直し、強化しました。

母乳代替品（BMS）のレガシーを乗り越える
参加者はネスレに対し、以前からある母乳代替品の問題にとどまらず、実践においてリーダーシップを発揮し、業界全体での基準の改善を推進するよう提言しました。ステークホルダーは、業界のリーダーとしての立場をとることが、信頼性の高い効果的な栄養戦略実施の前提条件と見なしています。

→ **ネスレの対応**
レガシー的な問題に対処するため、BMSに関するコミットメントを強化しました。

投資家の関心を引きつけ、共通価値の創造の価値を高める
共通価値の創造によってもたらされる長期的な価値への投資家の関心が高まっていることが指摘されました。共通価値の創造が創出する財務的な価値を具体的に示すことで、ネスレの行動力が強化されます。参加者は、投資家の関与が業界全体の基準を高めることにつながる可能性を強調しました。

→ **ネスレの対応**
2016年版報告書では、共通価値の創造がなぜ重要なのか、投資家の関心を積極的に引きつけることを目指しています。

短期的な行動の指針となる長期的なビジョンを提示する
長期的なビジョンをSDGsと関連づけて提示することで、ネスレとそのパートナーによる現在の共通価値の創造活動の規模と焦点を伝えます。

→ **ネスレの対応**
ネスレの企業としての存在意義を、強化したコミットメントと2030年に向けた長期的な目標とともに、改めて明示しました。

SDGs全体について関連性と機会を探る
SDGs全体について、特にSDGsとネスレのコミットメントに関連性のある分野（ネスレの栄養・健康・ウェルネスを支援する取り組みと、SDGs目標12「つかう責任」との関連など）について、行動の機会を探ること。

→ **ネスレの対応**
ネスレのコミットメントをSDGsに照らして見直し、ネスレの長期的な目標を明示しました。

栄養、環境、社会的課題についての考え方を結びつける
参加者はネスレに対し、製品ポートフォリオやビジネス上の意思決定において、栄養、環境、社会的課題の相互関連性を考慮するよう提言しました。

→ **ネスレの対応**
ネスレは事業運営、活動、製品とサービスに関するあらゆる意思決定に包括的なアプローチをとっています。2016年は、「ネスプレッソ」などの主要ブランドにおける自然への依存度をより良く把握するため、「自然資本プロトコル」を試験運用しました。

水に関する意欲的な目標を設定する
参加者はネスレに対し、水の問題に関して、アクセスと責任ある調達を拡大するための目標設定を含む機会に注目し、より革新的なアプローチをとるよう提案しました。また、ボトル入りの水に関する課題を強調し、ネスレ ウォーターズ、農業サプライチェーンと事業運営に同等の焦点を置くために「ウォータープラン」を拡張するよう提言しました。

→ **ネスレの対応**
ネスレの水へのアプローチを強化する「ネスレ ウォータープラン」を立案中です。

アプローチを簡素化し、透明性を高める
参加者は、共通価値の創造アプローチについて簡素化できる点を指摘しましたが、高いレベルの透明性とデータの開示を維持することの重要性を強調しました。

→ **ネスレの対応**
報告の包括性とデータの堅牢性を維持する一方で、完全版の共通価値の創造報告書で重要課題をより重視するよう努めました。

グローバルパートについて

© March 2017, Nestlé S.A.,
Public Affairs

Nestlé S.A.
Avenue Nestlé 55
CH-1800 Vevey
Switzerland
www.nestle.com/csv

解釈に疑問または相違が生じた場合、英語版が優先します。

イタリック体または「 」で表記されたブランドは ネスレグループの登録商標です。

視覚コンセプト/デザイン
Nestec Ltd., Corporate Identity
& Design, with Gavillet & Cie

写真
Wang Chengxuan, Stewart Cohen,
Deco Cury, Harmen Hoogland,
Ivan Kashinsky, Remo Nägeli,
Thierry Nangbo, Qilai Shen,
Aude Sirvain, Sergio Urday,
Alicia Vera, Daryl Visscher,
Daniele Volpe, Stefan Wildhirt

挿絵
Helge Hjorth Bentsen

制作/ネスレ日本株式会社
マーケティング & コミュニケーションズ本部
http://www.nestle.co.jp
http://www.facebook.com/Nestle.Japan
@nestlejapannews
2017年 6月